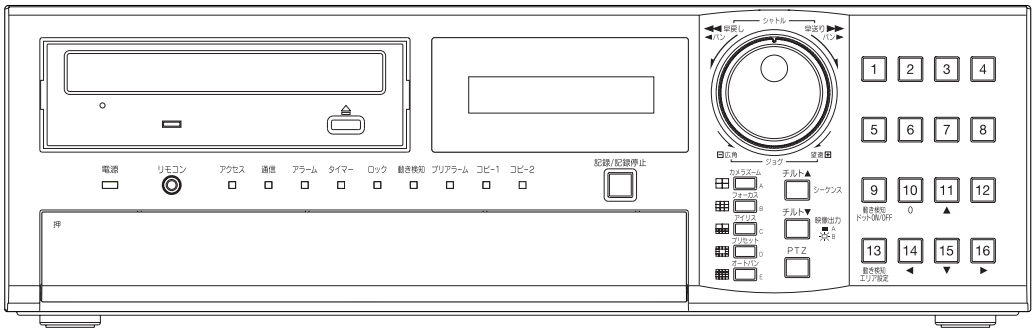
TOSHIBA

東芝デジタルレコーダー

ユーザー向け取扱説明書

形名

KV-D1650



このたびは東芝デジタルレコーダーをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
お求めのデジタルレコーダーを安全に正しく使っていただくために、お使いになる前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。お読みになったあとはいつでも手元においてご使用ください。

ホームページに最新の商品や周辺機器情報などを掲載しておりますので、ご参照ください。
■http://www.toshiba.co.jp/g_camera/

上記アドレスは予告なく変更される場合があります。このような場合はお手数ですが、東芝総合ホームページ（http://www.toshiba.co.jp/）をご参照ください。

もくじ

安全のために必ずお守りください ……3

ご注意 ……8

ソフトウェア使用許諾契約書 ……9

メニューの設定方法 …… 10

メニューの設定 …… 10
マウスを使ってメニューを設定する方法 …… 10
本機のボタンを使ってメニューを設定する方法 … 10
メニュー画面を表示する …… 11
メニュー画面を閉じる …… 11
項目を選択する …… 11
数値を入力する …… 12
パラメーターを設定する …… 12
メニュー画面中の記号 …… 13

日付と時刻の調整をする …… 14

日付と時刻の調整をする …… 14

マルチプレクサ機能を使う …… 15

マルチプレクサ機能 …… 15
マルチプレクサボタン …… 15

カメラを制御する …… 16

メニューを使ってカメラを制御する …… 16
本体ボタンを使ってカメラを制御する …… 16

基本的なマニュアル記録をする …… 17

基本的なマニュアル記録のしかた …… 17
通常記録のための記録コマ数と
記録画質を設定する …… 17

基本的な再生をする …… 18

基本的な再生のしかた …… 18

基本的な検索をする …… 19

基本的な検索のしかた …… 19
日付と時刻を指定して検索する …… 19
アラームリストから検索をする …… 20

記録した映像をコピーする …… 21

コピー 1 デバイスに記録映像をコピーする
／コピー 1 デバイスを設定する …… 21
コピー 2 デバイスに記録映像をコピーする
／コピー 2 デバイスを設定する …… 22
本機からビデオテープにコピーする …… 23

再生ソフトウェア …… 24
動作環境 …… 24
アプリケーションの起動 …… 24
操作パネル …… 24
ファイルメニュー …… 25
検索メニュー …… 25
操作メニュー …… 25
ブックマークメニュー …… 25
表示メニュー …… 25
グルーピングメニュー …… 25
右クリックで表示されるメニュー …… 25

Web ブラウザによる通信 …… 26

Web ブラウザによる通信 …… 26
パーソナルコンピューターの動作環境 …… 26
接続について …… 26
ログイン …… 26
メインメニュー …… 27
ライブ …… 28
再生 …… 29
時刻検索 …… 29
アラームリスト検索 …… 29
画像検索 …… 29
設定メニュー …… 30
利用者登録 …… 30
レコーダータイトルとカメラタイトルの設定
…… 31
メール設定 …… 31
接続方式の設定 …… 32
時計設定 …… 32
ログアウト …… 33
ログインユーザーを変更 …… 33

「故障かな」と思う前に …… 34

警告表示と CALL OUT 信号の出力 … 36

保証とアフターサービス …… 38

この取扱説明書の読み方

● **マークの見かた**

（操作上、参考にしてください）
操作上、参考にしていただきたい情報を記載しています。

（お気をつけください）
操作上、気をつけていただきたい情報を記載しています。

● **見たい項目の探しかた**
「もくじ」または右ページのインデックスをごらんください。

● **困ったときは**
「『故障かな』と思う前に」（34、35ページ）を読み、適切な処置をお取りください。

安全のために必ずお守りください

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの	⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

■ 図記号の意味は次のとおりです。

絶対に行わないでください	絶対に分解・修理はしないでください	絶対に触れないでください
絶対に水にぬらさないでください	絶対にぬれた手で触れないでください	
必ず指示に従い、行ってください	必ず電源プラグをコンセントから抜いてください	

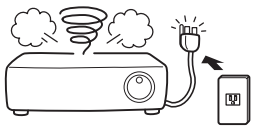
⚠警告

万一異常が発生したときは、電源プラグをすぐ抜く !!

異常のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に修理をご依頼ください。

プラグを抜く

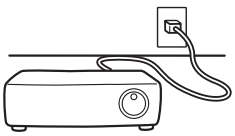
煙が出ている、変なにおいがするなど、異常なときは、電源プラグをすぐ抜く !!



使用禁止

異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。

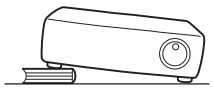
電源プラグを、コンセントからすぐに抜くことができる場所に設置する



電源プラグがすぐ抜ける場所

異常発生時、電源プラグをコンセントからすぐに抜くことができないと、火災の原因となります。

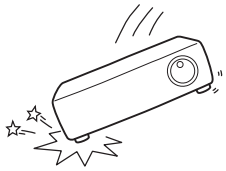
不安定な場所には置かない



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。

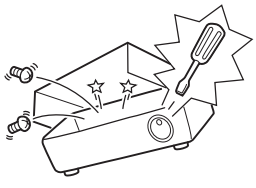
落としたり、キャビネットを破損したりした場合は使わない



使用禁止

火災や感電の原因となります。

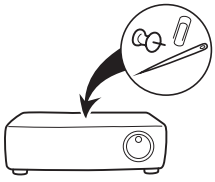
キャビネット（天板）をはずしたり、改造しない



分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、さわると感電の原因となります。また、改造すると、ショートや発熱により、火災や感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、販売店にご依頼ください。

内部に異物を入れない

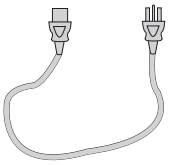


禁止

トレイ開閉口、通風口や排気口から金属類や燃えやすいものなどが入ると、火災や感電の原因となります。

⚠警告

付属の電源コードを使用する

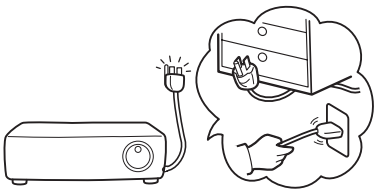


付属の電源コード

これ以外の電源コードを使うと、外部からの耐ノイズ入力性能が低下したり、火災の原因となります。アース端子は安全のための接地アースです。コンセントにアース端子がない場合は、アース工事を販売店にご依頼ください（有料）。電源プラグのアース端子をガス管・水道管・避雷針などへは絶対に取り付けないでください。

電源コードを傷つけない

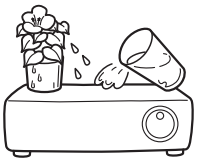
●重いものをのせない　●引っ張らない　●ねじらない
●無理に曲げない　●加熱しない　●加工しない
●束ねない



禁止

コードに傷がつくと、火災や感電、故障の原因となります。電源コードの芯線が露出したり、断線したりするなど、コードが傷んだときは、すぐに販売店に修理をご依頼ください。

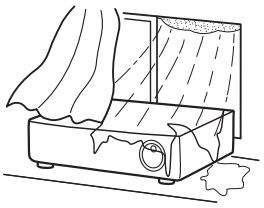
花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを上に置かない



水ぬれ禁止

内部に水や異物がはいると、火災や感電の原因となります。

水でぬらさない



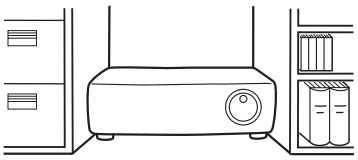
水ぬれ禁止

火災や感電の原因となります。雨天、降雪中、水辺、窓辺での使用は、特にご注意ください。

通風口、排気口をふさがない

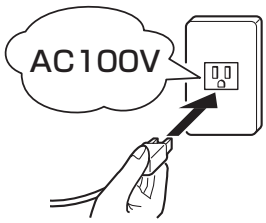
●風通しの悪い狭い場所に置かない
●じゅうたんや布団の上に置かない
●テーブルクロスなどをかけない

禁止



通風口、排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

正しい電源電圧（交流 100V）で使う、また配線器具の定格電流をこえない



交流 100V

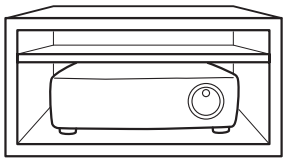
交流 100V 以外の電圧で使用したり、配線器具の定格電流をこえて使用したりすると、火災や感電の原因となります。また、たこ足配線はしないでください。

雷が鳴り出したら本体および電源プラグには触れない

接触禁止

感電の原因となります。

まわりに 15cm 以上すきまをあける（特に後面）



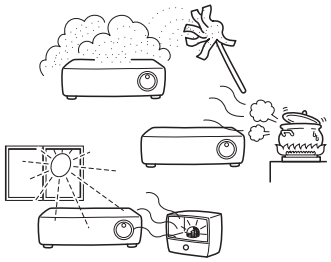
すきまをあける

内部に熱がこもり、火災の原因となります。
放熱をよくするために、他の機器から離して設置してください。

⚠注意

設置時は、次のような場所には置かない

●湿気やほこりの多い場所　●油煙や湯気が当たる場所
●直射日光の当たる場所　●熱器具の近く
●閉めきった自動車内など、高温になるところ
●製氷倉庫など、低温になるところ
●自動車内など、振動が多いところ
●温泉地など、硫化水素などのガスが発生するところ
●海岸近くなど、塩分の多いところ



設置禁止

このような場所に置くと、ショートや発熱、電源コードの被膜が溶ける、記録ドライブ等の劣化を早めるなどにより、火災や感電、故障、変形の原因となることがあります。

接続したまま本機を移動させない

禁止

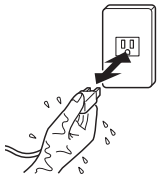
電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。電源が入った状態で移動させると内蔵 HDD を破損させる恐れがあります。電源コードや接続コードをはずしたことを確認し、1 分以上たったあとで移動させてください。また、ディスクを取り出し、トレイ開閉口は閉じておいてください。

本機の上に重いものを置かない
本機の上にのらない
トレイ開閉口の前に物を置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがや故障の原因となることがあります。

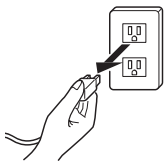
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない



ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

電源プラグを持って抜く



プラグを持つ

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグのほこりなどは定期的に取り、差し込みの具合を点検する

ほこりを取る

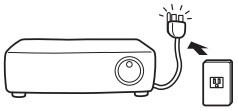
ほこりなどがついたり、コンセントへの差し込みが不完全な場合は、火災や感電の原因となることがあります。1 年に 1 回はプラグとコンセントの定期的な清掃をし、最後までしっかり差し込まれているか点検してください。

5 年に一度は内部の掃除を依頼する

内部掃除

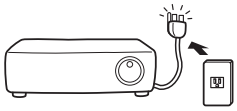
内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うのが効果的です。
内部掃除費用については、販売店にご相談ください。

長時間使用しないときは、ディスクを取り出して、電源プラグをコンセントから抜いておく



プラグを抜く

お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行う

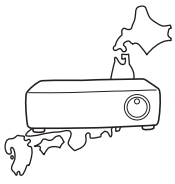


感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

本機は日本国内専用です

放送方式、電源電圧の異なる海外では使用できません。また、海外でのアフターサービスもできません。
This unit is designed for use in Japan only and can not be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.



日本専用

使用上のお願い

ハードディスク（HDD）について

- 本機は、精密機器である HDD を搭載しております。本機の取扱いには、十分ご注意ください。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。特に通電中や HDD へのアクセス中は、故障の原因となりますので十分ご注意ください。
- 記録・再生の動作中または通電中に、電源プラグを抜かないでください。
- 本機は、記録運用中に HDD 等に軽微な障害が発生した場合、自動復帰で記録運用を継続するシステムを搭載しておりますが、故障の早期発見のため、1 年ごとに点検を依頼されることをおすすめします。
- 本体の電源を切ってから少なくとも 1 分間は移動させないでください。

設置場所と取扱い

- はじめてご使用になるときは、本機内蔵の停電補償回路を動作させるために、48 時間以上連続通電を行って充電してください。
- 使用電源は、消費電力の大きな機器（コピー機、空調機器など）と同じコンセントからとらないでください。
- 本機を水平で安定した場所に置いて使用してください。不安定な場所に置いて使用すると、DVD ／ CD ディスクがはずれるなどの故障の原因となります。
- 他の機器とあまり近づけないでください。機器がお互いに悪影響を与えて、映像や音声が乱れる可能性があります。
- 本機とモニターを上下に重ねて置くと、映像が乱れたり、DVD ／ CD ディスクが取り出せないなどの故障の原因となります。
- 強い磁気をもっているものを近づけないでください。映像に悪影響を与えたり、記録が損なわれることがあります。
- 殺虫剤など揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- ワックスのかかった床などに直接置くと、本機底面のすべり止め用ゴムと床材の密着性が上がり、床材のはがれや着色の原因となることがあります。
- この製品は、電気用品安全法技術規準第二項 J55022 に基づくクラス A 情報技術装置です。住宅環境で使用する場合、電波妨害を発生させる恐れがあります。その際、この製品の利用者は、適切な手段を講ずることが必要とされることがあります。
- HDD と冷却用ファンは消耗品です。周囲温度 25℃でのご使用時に、HDD、冷却用ファンともに 3 万時間を目安に交換してください。（ただし、この時間は、あくまでも目安であり、部品を保証するものではありません。＜使用積算時間を表示する＞（システムメニュー→システム情報）を、点検の目安にすると便利です。）
- 許容周囲温度を必ずお守りください。低温でご使用になる場合は、10 分以上通電を行ったのち、ご使用ください。
- トレイ開閉口に手を入れないでください。手がはさまれ、けがの原因となることがあります。万一、手がはさまれたときは、無理に引き抜かず、電源を切ったあと電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。
- この製品は、業務用として特別に設計されたものです。本体の取扱いは専門知識を持ったかたが行ってください。

設置場所の移動

- 移動させるときは、必ず MAIN スイッチを OFF にし、完全に停止したことを確認したあと、電源プラグをコンセントから抜いてください。通電中に過度な衝撃を与えると、機器内部の電子部品や HDD をいためることがあります。特に電源インジケーターまたはアクセスインジケーターの点滅中は、ご注意ください。
- 移動させるときは、内部に衝撃を与えないように緩衝材などで包んでください。

お手入れ

- キャビネットの汚れは、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたしたあとよくしぼった布で汚れをふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの溶剤は使わないでください。変質したり、塗料がはげたりするなどの原因となります。

大切な記録の場合

- 必ず事前に記録を行い、正常に記録されていることを確認してください。
- 本機を使用中、本機もしくは接続機器等の不具合により、記録されなかったり正常に再生できなくなったりした場合、その内容の補償についてはご容赦ください。
- 万一の故障や事故に備えて、大切な記録の場合は定期的にバックアップをとられることをおすすめします。

著作権・肖像権についてのご注意

- ディスクを無断で複製、放映、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは、法律により禁止されています。
- お客様が本商品で記録した画像を権利者に無断で使用、開示、頒布または展示等を行うと著作権・肖像権等の侵害となる場合があります。なお、実演や興行、展示物などの中には、監視などの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像やファイルの伝送は、著作権法で許容された範囲内でのご使用に限られますのでご注意ください。

本機を使用した監視システム構築上の注意

- 本機は外部端子、RS-232C 端子、LAN 端子により、外部機器から制御することができます。また、外部端子、RS422 ／ 485、RS-232C 端子により、外部機器を制御することもできます。これらの機能により、高度なセキュリティシステムにも柔軟に対応することができますが、本機の設定内容や外部機器との接続や組合せによっては、本機または外部機器の誤動作が原因となり、監視システム全体に影響を及ぼす恐れがあります。
- 本機を使用して監視システムを構築される際には、事前に他の機器との接続や組合せによる動作確認を行った上で、ご使用になることをおすすめします。
- 大切な記録の場合は、必ず定期的にコピー／バックアップをとられることをおすすめします。
- 万一、本機の不具合により監視システムの動作エラー、記録データの消失、その他の損失が発生した場合、弊社はその補償や責任を一切負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機の発報機能を、重大な判断に使用したり、人命に関わる用途などに使用したりしないでください。
- 停電や電圧低下およびその他の障害により本機が記録中の外部機器を認識できなくなった場合、本機内部や他の HDD に記録位置が移動する場合があります。このような現象を防ぐために、無停電電源装置等をご使用になられることをおすすめします。
- 記録動作中にコンセントを抜いたりブレーカーを切ったりすると、ハードディスクが故障したり、記録したデータが再生できなくなる恐れがあります。ブレーカーを毎日入、切される場合は、タイマー記録をブレーカーが入っている時間帯に動作するように設定し、記録動作中にブレーカーを切らないようにしてください。

ネットワークについて

- ネットワークの設定については、必ずネットワーク管理者の確認を事前に取られることをおすすめします。

記録時間と製品保証

- 連続記録可能時間とメニュー画面に表示される見積り時間は、機能動作上の連続記録可能時間であり、製品保証期間（1 年）とは異なります。また、使用部品の動作信頼性を保証する期間でもありません。

動き検知機能について

- 本機に内蔵されている動き検知機能は、入力される映像信号の状態などにより、誤動作する場合があります。本機の検知機能を用いて発報するシステムなどに接続している場合は、誤動作にご注意ください。また、誤動作が問題となる場合は、後面部のアラーム入力端子を使用して別のセンサーを取り付けてください。

DVD ／ CD ディスクについて

- ひび割れ、変形を起こしたディスクや、接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。使用中に飛び散ってけがの原因となることがあります。
- 再生面に触れないように持ってください。
- ディスクが結露している場合は、ディスク表面の水滴をよくふき取ってからお使いください。
- 指紋やほこりなどのディスクの汚れは、画質や音質の低下の原因となります。DVD ／ CD ディスクの中心から外側に向かって柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 汚れがひどいときは、柔らかい布を水にひたしてよくしぼり、汚れを軽くふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- ベンジンやシンナーなどの溶剤、レコードクリーナー、静電気防止剤などは使わないでください。ディスクを傷める原因となります。
- 次のようなディスクは使わないでください。ディスク自体の破損や本体の故障の原因となります。
  - 紙やシールなどを貼ったディスク、傷がついたディスク
  - ラベルがはがれていたり、のりがはみ出たりしているディスク
  - ひび割れ、変形を起こしたディスク、接着剤などで補修したディスク
- 使用後は、所定のケースに入れて保管してください。次のような場所を避けて、保管してください。
  - 直射日光の当たるところ
  - ちりやほこりの多いところ
  - 高温や多湿のところ
- 市販の映画ソフトや、家庭で記録された映像は再生できません。本機で記録したデータのみ再生できます。
- パーソナルコンピューターで使用したディスクや、コピーに失敗したり停電でコピーが中断されたディスクは、誤動作の原因になりますので、使用しないでください。
- 本機で DVD や CD にコピーしたデータは、付属のソフトウェアを使用してパーソナルコンピューターで再生することができますが、すべてのパーソナルコンピューターまたは DVD ／ CD ドライブでの再生を保証するものではありません。

クラス 1 レーザー製品（CLASS 1 LASER PRODUCT）

録画／再生用レンズ（レーザーピックアップ）のお手入れ

・録画／再生用レンズにごみやほこりがつくと、映像の乱れや音飛びなどが発生し、正常に録画や再生ができなくなります。清掃は販売店にご相談ください。
市販のレンズクリーニングディスクは、レンズを破損する恐れがあるため、使用しないでください。

付属の電源コードについて

・付属の電源コードは、本製品専用です。決して他の製品には使用しないでください。

免責について

・地震、雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、弊社は、一切の責任を負いません。
・本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損失、事業の中断、記録内容の変化･消失など）に関して、弊社は一切の責任を負いません。
・取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、弊社は一切の責任を負いません。
・弊社が関与しない接続機器、ソフトウェアなどとの意図しない組み合わせによる誤動作やハングアップなどから生じた損害に関しては、弊社は一切の責任を負いません。
・本機を使用中、万一何らかの不具合により、録画･録音されなかった場合の内容の補償および付随的な損害（事業利益の損失、事業の中断など）に対して、弊社は一切の責任を負いません。
・お客様ご自身または権限のない第三者が修理・改造を行った場合に生じた損害に関して、弊社は一切の責任を負いません。
・本製品に関し、法律の定める範囲において、いかなる場合も弊社の費用負担は本製品の個品価格以内とします。

外部機器について

・本機では、さまざまな外付け HDD を接続し、メモリーを拡張したり、コピー機器として使用したりすることができますが、本機を使用して高レートで記録･再生･コピーを行うと、接続する機器によっては、データ転送や応答が遅いことにより、記録や再生での画像抜けなどが発生することがあります。実際の運用前に必ず確認してご使用いただくようお願いします。
・本機のバスパワーを使用した外部機器の電源制御機能は使用しないでください。
・ご使用になりたい外部機器が運用方法に適さない場合があります。販売店にお問い合わせしていただくことをおすすめします。

個人情報保護についてのご注意

・カメラシステムを使用して撮影する人物・その他の映像で、個人を特定できるものは個人情報となります。その映像の開示・公開、インターネットでの配信はあらかじめ承諾を得ることが必要になり、システムを運用する方の責務となりますのでご注意ください。

ご 注 意

このたびは、東芝デジタルレコーダー　KV-D1650（以下、本機という）をお買上げいただき、ありがとうございます。本機のご使用を開始される前に、必ず、本機に含まれるソフトウェア（以下、許諾ソフトウェアという）につきまして、ユーザー向け取扱説明書 9 ページの「ソフトウェア使用許諾契約書」をお読みください。**お客様による本機のご使用開始をもって、ソフトウェア使用許諾契約書にご同意いただいたものとします。**

なお、本機には GNU General Public License または GNU Lesser General Public License の適用を受けるソフトウェアが含まれております。かかるソフトウェアは「許諾ソフトウェア」には含まれず、ソフトウェア使用許諾契約書の対象外ですのでご注意ください。GNU General Public License または GNU Lesser General Public License が適用されるソフトウェアの使用許諾条件については、「GNU GPL ／ LGPL 適用ソフトウェアに関するお知らせ」注) をごらんください。

また、同様に、本機には「Apache」ならびに「OpenSSL（「Original SSLeay」ライブラリを含む）」が含まれていますが、かかるソフトウェアも「許諾ソフトウェア」には含まれず、ソフトウェア使用許諾契約書の対象外ですのでご注意ください。当該ソフトウェアの使用許諾条件については、「Apache ソフトウェアに関するお知らせ」注) ならびに「OpenSSL ソフトウェアに関するお知らせ」注) をごらんください。

さらに、本機に含まれる「Berkeley Database」、「agetty」、「expat」ならびに「zlib」の各ソフトウェアは、その他のオープン ソース ソフトウェアであり、「許諾ソフトウェア」には含まれず、ソフトウェア使用許諾契約書の対象外ですので、ご注意ください。当該ソフトウェアの使用許諾条件については、「その他のオープン ソース ソフトウェアに関するお知らせ」注) をごらんください。

注)「GNU GPL ／ LGPL 適用ソフトウェアに関するお知らせ」、「Apache ソフトウェアに関するお知らせ」、「OpenSSL ソフトウェアに関するお知らせ」ならびに「その他のオープン ソース ソフトウェアに関するお知らせ」は、付属の KV-D1650 CD のフォルダ「OpenSoft_License」内に、電子文書（電子ファイル notice_GPL_LGPL_D1650.pdf、notice_Apache_D1650.pdf、notice_OpenSSL_D1650.pdf、notice_other_D1650.pdf）として保存しておりますので、こちらをごらんください。

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、お客様（以下、使用者という）と弊社（以下、ライセンサーという）との間での許諾ソフトウェアの使用権の許諾に関して合意するものです。

第１条（総則）

ライセンサーは、許諾ソフトウェアの非独占的かつ譲渡不能な使用権を使用者に許諾します。

第２条（使用権）

1. 契約によって生ずる許諾ソフトウェアの使用権とは、本機上においてのみ使用者が許諾ソフトウェアを使用する権利をいいます。使用者は、かかる許諾ソフトウェアの使用に必要な範囲において、本機の取扱説明書の許諾ソフトウェアに関連する部分を使用できるものとします。
2. 使用者は、許諾ソフトウェアおよび関連書類の一部もしくは全部を複製、複写もしくは修正、追加等の改変をすることができません。
3. 使用者は、許諾ソフトウェアを取扱説明書に記載の使用方法に沿って使用するものとします。

第３条（許諾条件）

1. 使用者は、前条に規定する使用権を第三者に譲渡することはできないものとします。
2. 使用者は、許諾ソフトウェアに関して逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。

第４条（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェアおよびその関連書類に関する著作権等一切の権利は、ライセンサーまたはライセンサーが許諾ソフトウェアの再許諾権を許諾された原権利者（以下原権利者とします）に帰属するものとし、使用者は許諾ソフトウェアおよびその関連書類に関して本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第５条（ライセンサーおよび原権利者の免責）

ライセンサーおよび原権利者は、許諾ソフトウェアについて何等の保証を行うものではなく、使用者が本契約に基づき許諾された使用権を行使することにより生じた使用者もしくは第三者の損害に関していかなる責任も負わないものとします。但し、これを制限する別途法律の定めがある場合はこの限りではありません。

第６条（第三者に対する責任）

使用者が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間でプライバシー、著作権、特許権その他の知的財産権等で問題が生じたときは、使用者自身が自らの責任で解決するものとし、ライセンサーは一切の責任を負わないものとします。

第７条（秘密保持）

使用者は、本契約により提供される許諾ソフトウェア、その関連書類等の情報および本契約の内容のうち公然と知られていないものについて秘密を保持するものとし、ライセンサーの許諾を得ることなく第三者に開示または漏洩しないものとします。

第８条（契約の解除）

ライセンサーは、使用者において次の各号の一に該当する事由があるときは、直ちに本契約を解除し、またそれによって蒙った損害の賠償を使用者に対し請求できるものとします。

（１）本契約に定める条項に違反したとき

（２）差押、仮差押、仮処分その他強制執行の申立を受けたとき

第９条（許諾ソフトウェアの廃棄）

前条の規定により本契約が終了した場合、使用者は契約の終了した日から２週間以内に許諾ソフトウェア、関連書類および複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をライセンサーに差し入れするものとします。

第 10 条（許諾ソフトウェアの更新）

使用者が、ライセンサーが提供または販売する更新用ＣＤなどの手段により許諾ソフトウェアの更新を行う場合、更新後のソフトウェアについても本契約が適用されるものとします。ただし、ライセンサーより別の契約条件が提示される場合はこの限りではありません。

第 11 条（その他）

1. 本契約の一部が法律によって無効となった場合でも、当該条項以外は有効に存続するものとします。
2. 本契約に定めなき事項もしくは本契約の解釈に疑義を生じた場合は、ライセンサー、使用者は誠意をもって協議し、解決するものとします。

以上

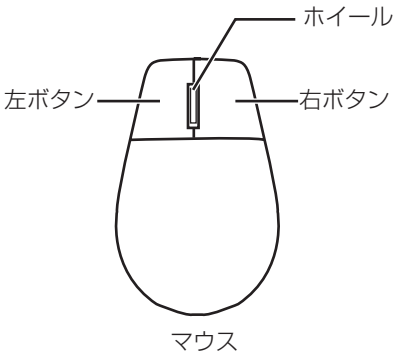
メニューの設定方法

■ メニューの設定

本機の動作条件は、出力 A モニターのメニュー画面で設定することができます。メニューは、本機前面のボタンまたはマウスを使用することによって選択、設定できます。メニュー画面中の 1 から 16 の数字(カメラ番号ボタン)と A から E のアルファベット(分割ボタン）が本機前面のボタンの名前を表しています。

出力 B が選択されているときは、マウスのカーソルは表示されますが、メニューは表示されず、設定できません。メニューは、出力 A が選択されているときのみ設定することができます。

◆ マウスを使ってメニューを設定する方法



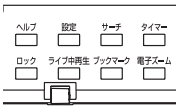
マウスは付属品ではありません。

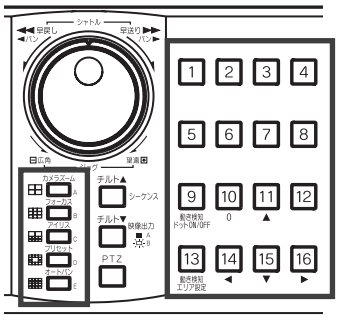
マウスは、図のような左右ボタンを備えた標準的な USB マウスをご使用ください。マウスによってはご使用になれない場合があります。ご注意ください。

1　マウスの右ボタンと左ボタンを使って設定する。

- メニューを開いたり、設定したい項目を選択するときは、左ボタンを使います。
- 動き検知機能の範囲を設定するときは、右ボタンを使います。
- 本機では、マウスのホイールは使用できません。

◆ 本機のボタンを使ってメニューを設定する方法

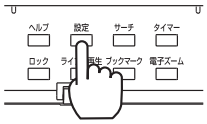




1　設定ボタン、カメラ番号ボタン、分割ボタン（A ～ E）を使って設定する。

- メニュー画面を開くときは、設定ボタンを押します。
- 各メニューを開いたり、設定したい項目を選択するときは、カメラ番号ボタン（1 ～ 16）と分割ボタン（A ～ E）を押します。

◆ メニュー画面を表示する

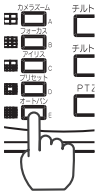


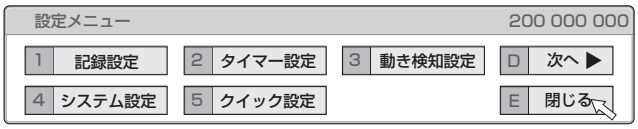
1 設定ボタンを押すか、マウスを左クリックしてメニューを表示する。

- ＜ユーザーメニュー＞が開きます。
- 他のメニューを開くときは、D ボタンを押すか、「次へ▶」の上で左クリックします。

マウスを使うときは、以下の範囲をクリックしてください。

◆ メニュー画面を閉じる

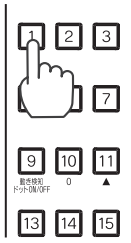




1 E ボタンを押すか、「閉じる」の上でマウスを左クリックする。

本機の設定ボタンを押しても、メニューを閉じることはできません。

◆ 項目を選択する

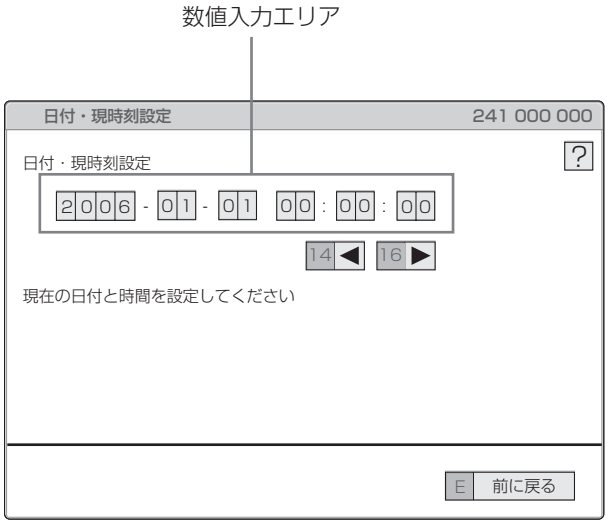


1 設定したい項目の番号のボタンを押す。または、設定したい項目の上でマウスを左クリックする。

- 選択されたメニューが開きます。
- 項目を選択してその番号のボタンを押します。または、設定したい項目の上でマウスを左クリックします。

メニューの設定方法（つづき）

◆ 数値を入力する



【本機のボタンを使って入力するとき】

1 カメラ番号ボタンの 0 から 9 を押して、入力する。

・ 画面上に赤く表示されている数字が、入力可能な数字です。

2 次の入力エリアに移動するときは、16 ボタンを押す。

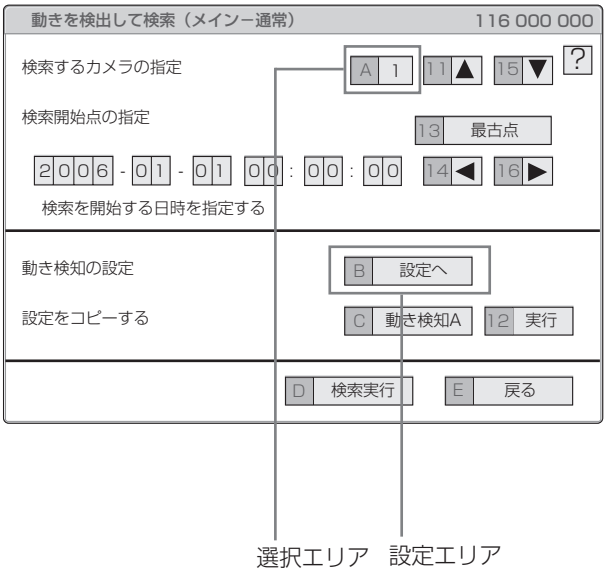
・ 前のエリアに戻るときは、14 ボタンを押します。

【マウスを使って入力するとき】

1 画面上に赤く表示されている数字の上で、表示したい数字が現れるまで左クリックする。

・ エリアを移動したいときは、移動したいエリアの上で左クリックするか、◀、▶を左クリックします。

◆ パラメーターを設定する



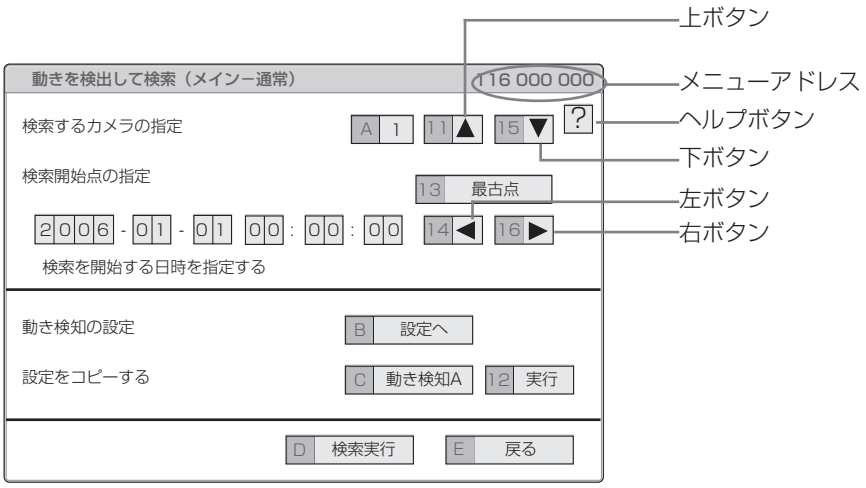
1 設定したい項目が現れるまで A ボタンを押す。または、マウスを左クリックする。

・ 項目によっては、さらに詳細な設定が必要です。この場合、「B(設定へ)」のような項目が表示されます。必要に応じて B ボタンを押すか、マウスを「設定へ」の上で左クリックして詳細設定を行ってください。

メニューを閉じるときは、E ボタンを押すか、マウスを「戻る」または「閉じる」の上で左クリックしてください。

本機の設定ボタンを押してもメニューを閉じることはできません。

◆ メニュー画面中の記号



メニュー画面中にはいくつかの記号が表示されます。意味は以下の通りです。

? （ヘルプ） ヘルプボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、メニューの詳細情報が表示されます。

◀ （左） 14 ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定する項目が左に移動します。

▶ （右） 16 ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定する項目が右に移動します。

▲ （上） 11 ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定値が大きくなります。

▼ （下） 15 ボタンを押すか、この記号の上で左クリックすると、設定値が小さくなります。

メニューアドレス 各メニューにはメニューアドレスがついています。メニューアドレスの番号に対応した番号を本機前面部のボタンを押すことによって、メニューを開くことができます。

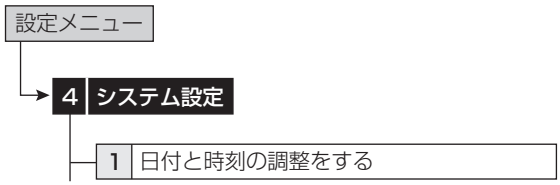
たとえば、＜動きを検出して検索をする＞メニューを開くには、設定ボタンを押してからカメラ番号ボタンを 1、6 の順に押します。

日付と時刻の調整をする

■ 日付と時刻の調整をする

日付、現在時刻を調整するときに使用します。

- 記録を始める前に、あらかじめ日付と現在時刻を正確に合わせてください。
- 本機は、時計が動いていなければ正常に記録や再生ができません。運用前に、必ず時計が動いていることを確認してください。



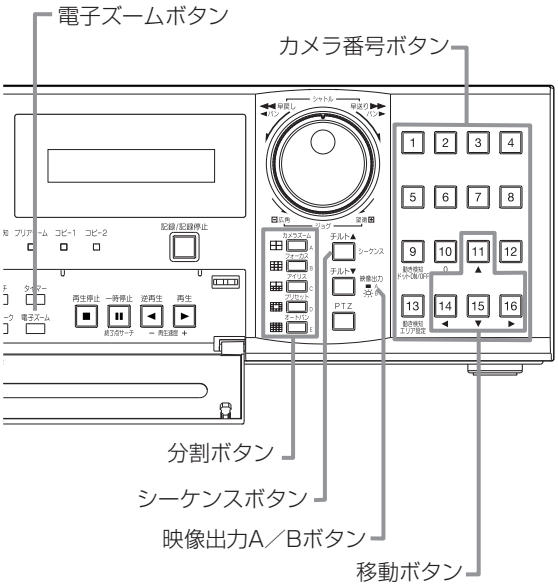
1　現在の年、月、日、時、分、秒を設定する。

- 時刻は 24 時間表示になっています。
- 本機は 4 桁年号表示を導入しています。表示可能範囲は 2001 年 1 月 1 日から 2037 年 12 月 31 日までの 37 年です。うるう年の自動計算機能も内蔵しています。2037 年 12 月 31 日を過ぎると、再び 2001 年の表示に戻ります。

マルチプレクサ機能を使う

■ マルチプレクサ機能

本機前面部に配置されているボタンを使って、マルチプレクサ機能を操作することができます。



◆ マルチプレクサボタン

カメラ番号ボタン（1 ～ 16）

本機後面部の CAMERA IN 端子 1 ～ 16 に接続されたカメラの映像を、画面に 1 画表示します。

カメラ番号ボタンを押すことにより、接続されているカメラが記録運用に設定されていなくても、映像を表示することができます。

分割ボタン

押すたびに、以下の順番で分割画面を表示します。

4 分割ボタン（⊞）：4 分 割 a → 4 分 割 b → 4 分 割 c → 4 分割 d → 4 分割 a →・・・

9 分割ボタン（▦）：9 分割 a → 9 分割 b → 9 分割 a →・・・

10 分割ボタン（▦）：10 分 割 a → 10 分 割 b → 10 分 割 a →・・・

13 分割ボタン（▦）：13 分 割 a → 13 分 割 b → 13 分 割 a →・・・

16 分割ボタン（▦）：16 分割

シーケンスボタン

分割画面または 1 画表示のシーケンシャル画面を表示します。詳細設定は、＜マルチプレクサの設定をする＞（設定メニュー→システム設定）で行います。再生中は、シーケンシャル表示はできません。

シーケンシャル表示は、シーケンスボタンをもう一度押すか、異なったタイプの分割画面または 1 画表示を表示させると解除されます。

前面部の映像出力 A ／ B ボタンを押すと、マルチプレクサ出力が切り換わります。出力 A が選択されると、ボタンが消灯します。出力 B を選択すると、ボタンが点灯し、カメラ番号ボタン、分割ボタンとシーケンスボタンが OUTPUT B 端子に接続されたモニター画面の操作に使うことができるようになります。もう一度映像出力 A ／ B ボタンを押すと、マルチプレクサ出力は出力 A に切り換わります。

電子ズームボタン

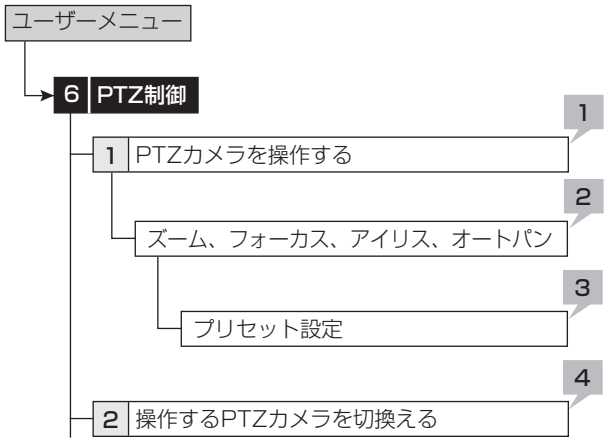
1 画表示中に拡大ボタンを押すと、1 倍画面が表示され、拡大中心点（X）が表示されます。さらに押すと 2 倍、4 倍と拡大表示されます。移動ボタンを押すことにより、中心点を上下左右へ移動させることができます。

拡大ボタンを押すことにより、カメラ番号ボタン 11、14、15、16 の機能が移動ボタンに切り換わります。

カメラを制御する

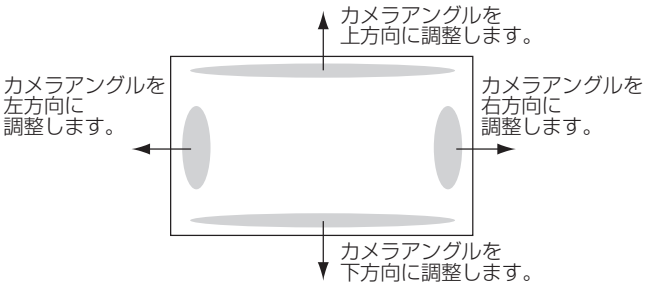
RS-232C や RS-422 ／ 485 を使って、接続されたカメラを制御することができます。

■ メニューを使ってカメラを制御する



1 PTZ カメラをパン、チルトする。（マウスを使用して）

・ 灰色部分をマウスでクリックして、カメラのアングルを調整します。



2 ズーム、アイリス、フォーカスを調整する。オートパンを実行する。

3 監視ポイントを 1 から 16 までの間で設定する。

・ オートパンのプリセット位置を、PTZ カメラに登録することができます。

4 制御するカメラの番号を切り換える。

・ 制御するカメラの番号は本機前面の LCD に表示されます。

```
2006-01-01 00:00:00
PTZ CAM1
```

＜PTZ 制御＞メニューは、マウスでのみ操作できます。本体ボタンでは操作できません。

■ 本体ボタンを使ってカメラを制御する

1 制御するカメラ番号のボタンを押し、1 画面の映像を表示させる。

2 PTZ ボタンを押す。

・ 本機が PTZ モードに変わり、ボタンが点灯します。PTZ モードの間、「PTZ」が前面の LCD に表示されます。

```
2006-01-01 00:00:00
PTZ
```

・ 制御するカメラの番号が前面の LCD に表示されます。

```
2006-01-01 00:00:00
PTZ CAM1
```

3 カメラの制御を行う。

チルト：チルト▲ボタンを押すと、カメラが上方向に傾きます。チルト▼ボタンを押すと、下方向に傾きます。

パン：シャトルを右に回すと、カメラが右方向にパンします。左に回すと左方向にパンします。

カメラズーム：カメラズームボタンを押してからジョグを左（広角）または右（望遠）に回すと、カメラズームが調整できます。

フォーカス：フォーカスボタンを押してからジョグを左（遠）または右（近）に回すと、フォーカスが調整できます。

アイリス：アイリスボタンを押してからジョグを左（閉じる）または右（開く）に回すと、アイリスが調整できます。

プリセット：プリセットボタンを押し、3 秒以内にカメラ番号ボタンを押すと、監視ポイントをプリセットできます。16 ポイントまで設定できます。

オートパン：オートパンボタンを押すと、カメラのオートパン機能が動作します。

本体ボタンでの PTZ 操作中は、再生関連の機能や電源ボタンは使用できません。また、メニューを表示することもできません。

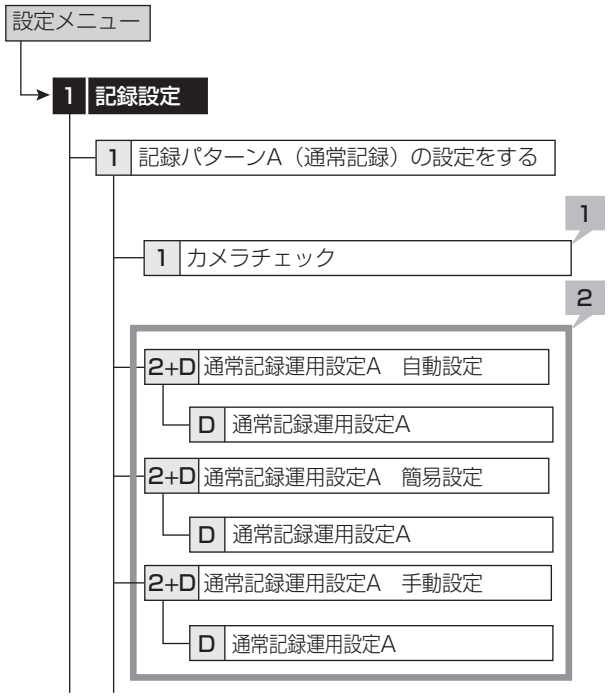
基本的なマニュアル記録をする

■ 基本的なマニュアル記録のしかた

ここでは、マニュアル操作による通常記録のしかたを説明します。

記録を始める前に、＜メインデバイスの記録設定をする＞で、リピート記録設定の確認が必要です。リピート記録設定を確認したあと、記録運用の設定を始めます。（システムメニュー→デバイス登録）

- マニュアル記録の設定は、＜記録パターン A（通常記録）の設定をする＞で行ってください。
- マニュアル記録で使用できるのは、＜記録パターン A（通常記録）の設定をする＞のみです。＜記録パターン B の設定をする＞～＜記録パターン D の設定をする＞は、タイマー記録運用でのみ使用できます。＜記録パターン A（通常記録）の設定をする＞は、タイマー記録運用でも使用できます。
- この設定は、マニュアル記録のための設定です。タイマー記録運用は、＜タイマー設定＞メニュー上で設定する必要があります。



◆ 通常記録のための記録コマ数と記録画質を設定する

1 カメラチェックを行う。

・「実行」を選択すると、映像信号の入力のあるカメラ番号を自動的に検出します。ここでの設定は手順 2 の自動と簡易の両方に適用されます。

カメラチェックを実施した場合、自動または簡易を使用して記録設定すると、映像のあるカメラのみ設定されます。

2 記録設定方法とその詳細を設定する。

「自動」: 運用周期と 1 日あたりの記録時間を設定して、自動的に記録画質と記録コマ数を設定します。希望の設定を選択して、「実行」を選択してください。

・「自動」設定が実行されると、プレビュー画面が自動的に表示されます。

「簡易」: すべてのカメラ番号に、同じ通常記録のフレーム／フィールド記録、記録コマ数、画質を設定します。すべてのカメラ番号で通常記録コマ数が「－－－」に設定されていると、通常記録は行われません。希望の設定を選択して、「実行」を選択してください。

・「簡易」設定が実行されると、プレビュー画面が自動的に表示されます。

「手動」: それぞれのカメラ番号に、個別に通常記録のフレーム／フィールド記録、記録コマ数、画質を設定します。記録コマ数が「－－－」に設定されている場合、そのカメラ番号の記録は行われません。

・ 設定を確認するには、「確認」を選択して、プレビュー画面を表示してください。

フレーム記録が設定されている場合、プレビュー画面の記録コマ数の表示が緑色に変わります。

記録コマ数の合計が 240 pps 以上になると、記録コマ数の表示が赤色に変わります。

＜記録見積もり時間＞について

・ 通常記録の記録コマ数、記録画質の設定によって連続で記録可能な時間が通常記録のプレビュー画面の下部に＜記録見積もり時間＞として表示されます。（アラーム記録の設定を変えても、時間は変わりません。）

・ パーティションを設定した場合、＜記録見積もり時間＞は、通常記録に記録可能な見積もり時間の表示となります。

3 記録／記録停止ボタンを押す。

・ 記録／記録停止ボタンが点灯し、記録が始まります。

4 記録を停止するには、記録／記録停止ボタンを 2 秒以上押し続ける。

・ 記録が停止し、記録／記録停止ボタンが消灯します。

基本的な再生をする

■ 基本的な再生のしかた

記録されたデータを再生します。本機では、記録した映像をいろいろな方法で再生することができます。ここでは、もっとも一般的な再生のしかたを説明します。

1　本機前面部のドア内部の再生ボタンを押す。

- 再生が始まります。
- 電源を入れたあとは、記録された最も古い映像から再生が始まります。それ以外は、前回再生を停止させたところから再生を始めます。

「リピート再生」が「切」に設定されている場合、HDDの物理的な終端または記録部分の終端にくると、再生を停止します。「リピート再生」が「入」に設定されている場合は、記録されている映像データを繰り返し再生します。（システムメニュー→デバイス登録→再生の設定をする）

【再生デバイスを変更する場合】

2-1 再生デバイスと再生エリアを＜再生／検索デバイスの設定をする＞で選択する。（ユーザーメニュー→検索）

「メイン」：メインデバイスの記録内容を再生します。

「通常」：通常記録エリア

「アラーム」：アラーム記録エリア

「LPA」：ロングプリアラーム記録エリア

「コピー 1」：コピー 1 デバイスの記録内容を再生します。

「シリアルバス」、「DVD ／ CD」、「USB メモリ」

「コピー 2」：コピー 2 デバイスの記録内容を再生します。

「内蔵 HDD」、「シリアルバス」、「DVD ／ CD」

「アラーム」は、「パーティション変更」で「アラーム記録エリア」が「0%」以外に設定されているときに表示されます。（システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする）

「LPA」は、「パーティション変更」で「ロングプリアラームエリア」が「0%」以外に設定されているときに表示されます。（システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする）

2-2 再生ボタンを押す。

- 選択された再生デバイスのデータを再生します。

再生停止中に一時停止／終了点サーチボタンを押すと、最新の記録部分の終端付近で静止画再生となります。

3　再生を一時停止する場合は、一時停止ボタンを押す。

- 再生を開始する場合は、再び一時停止ボタンまたは再生ボタンを押してください。

4　再生をやめる場合は、再生停止ボタンを押す。

- 次に再生をするときは、前回再生を停止した位置から再生を始めます。

前面部の映像出力 A ／ B ボタンを押すと、マルチプレクサ出力が切り換わります。出力 A が選択されると、ボタンが消灯します。出力 B を選択すると、ボタンが点灯し、再生に関連するボタンが、OUTPUT B 端子に接続されたモニター画面の操作に使うことができるようになります。もう一度映像出力 A ／ B ボタンを押すと、マルチプレクサ出力は出力 A に切り換わります。

各カメラの再生速度は、記録条件により一定の速度にならない場合があります。

分割表示で再生した場合、記録したコマ数より再生コマ数が少なくなることがあります。

出力 A、出力 B の両方で再生する場合、再生速度が遅くなる場合があります。

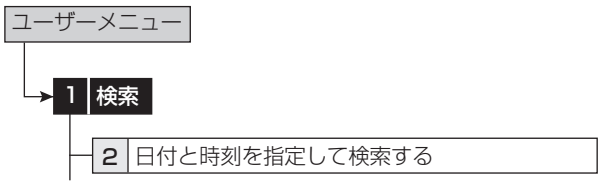
基本的な検索をする

■ 基本的な検索のしかた

この機能では、見たい映像を頭出しすることができます。本機は、5 種類の検索機能を備えています（日付と時刻を指定して検索する、アラームリストから検索をする、映像が記録されたデバイスを特定する、ブックマークから検索をする、動きを検出して検索をする）。ここでは、基本的な検索機能である、＜日付と時刻を指定して検索する＞と＜アラームリストから検索をする＞について説明します。

◆ 日付と時刻を指定して検索する

この方法では、日、時、分、秒、任意のカメラ番号を指定して検索することができます。検索結果は静止画で表示されます。1 台のカメラ番号を指定して検索した場合、結果は 1 画表示されます。2 台以上のカメラ番号を指定して検索した場合は、16 分割表示されます。



1 検索したい日時を手動で設定する場合は、「手動指定」を選択して年、月、日、時、分、秒を設定する。

・ 記録の開始点または終了点を検索したい場合は、「開始指定」または「最新指定」をそれぞれ選択する。

2 カメラ番号を設定する。

3 「検索実行」を選択する。

4 検索した映像を再生するには、再生ボタンまたは一時停止ボタンを押す。

5 再生、静止画再生をやめる場合は、再生停止ボタンを押す。

検索するデバイスを変更するには、＜再生／検索デバイスの設定をする＞で設定をしてください。（ユーザーメニュー→検索）

検索結果を 16 分割表示から希望するカメラ番号の映像を選んで 1 画表示させるには、希望するカメラ番号のボタンを押してください。見たい映像が 1 画表示されます。

設定した時刻の記録がない場合、同じカメラ番号で設定した日時に一番近い時刻の映像を静止画再生します。

同日同時刻のデータが複数箇所ある場合は、検索を複数回実行し、目的の映像を検索してください。

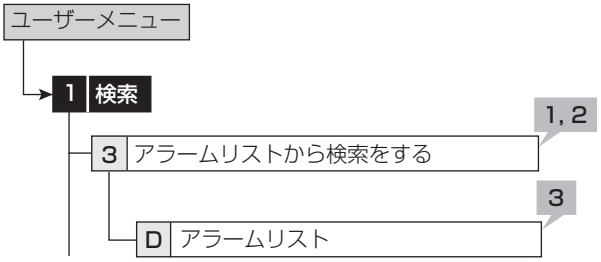
記録の状態によっては、正しく検索できない場合があります。

静止画再生中に 1 画面表示から分割表示、分割表示から 1 画面表示に変更すると、カメラによっては、近傍に映像が記録されていない場合や、静止画表示したタイミングにより映像が表示されない場合があります。

基本的な検索をする（つづき）

◆ アラームリストから検索をする

本機では、アラーム記録やエマージェンシー記録が始まると、アラームリストにアラーム記録やエマージェンシー記録の開始時刻を登録します。このアラームリストに登録されたアラーム記録（エマージェンシー記録）開始時刻の中から、希望する時刻の映像を検索することができます。検索結果は静止画で 1 画表示されます。



1 ＜アラームリストから検索をする＞で検索したい年、月、日、時、分、秒、センサー番号を設定する。

「最新の映像」: 最新の記録時刻を日時に表示します。

2 「検索実行」を選択する。

- アラームリストの登録件数が多い場合には、アラームリストの表示完了まで時間がかかることがあります。
- アラームリストは、入力した日、時、分、秒以前に開始したアラーム記録のリストで、入力した日、時、分、秒に一番近いものを表示します。

3 表示したいアラームリストを選択する。

- 検索するデバイスを変更するには、＜再生／検索デバイスの設定をする＞で設定をしてください。（ユーザーメニュー→検索）

  「アラーム記録エリア」と「ロングプリアラームエリア」が設定されているときにアラームリスト検索を行う場合は、再生／検索エリアをそれぞれ「アラーム」、「LPA」に設定してください。
- 「センサー」表示は、アラーム信号が入力されたセンサー番号を表します。
- 通常記録エリアまたはアラーム記録エリアのリピート記録設定が「切」に設定され、HDD の終端でアラーム記録（エマージェンシー記録）が入った場合、その記録はアラームリストに登録されない場合があります。
- アラームセンサー番号に対応していないカメラの映像をコピーで外部メディアに記録した場合は、本体と同様のアラームリストは構築できません。
- 動きの検出と後面の ALARM IN 端子の接地が同時に多数発生した場合、アラームリストにその開始時刻すべてを登録できない場合があります。その場合、一番若い番号のセンサーがアラームリストに登録されます。
- アラームリスト上の文字は、後面部の ALARM IN 端子が接地された場合はオレンジ、動きを検出した場合は白、EMERGENCY 端子が接地された場合は赤紫、通信経由でアラーム信号が入力された場合は緑で表示されます。
- アラームリストを消去するには、アラーム記録された HDD のデータを消去してください。（システムメニュー→記録映像消去）

  データ消去すると、映像データを含む HDD 内のすべてのデータが消去されますのでご注意ください。
- インデックス信号がない場合、アラームリスト検索は行われません。
- ＜アラームリスト＞を表示中にアラーム記録（エマージェンシー記録）が始まった場合は、一度＜アラームリスト＞を終了して、再び表示させてください。新しいリストが追加されます。このとき、検索する日、時、分、秒の再設定が必要になる場合があります。
- ロングプリアラームエリアのアラームリスト検索では、「最新へ」を選択するとメディアの先頭、「最古へ」を選択すると、メディアの最後尾からのリストを表示します。

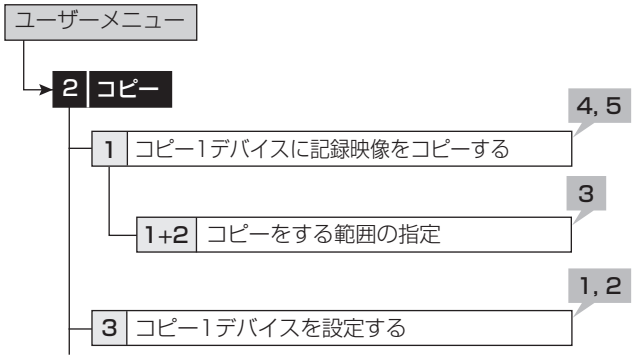
記録した映像をコピーする

メインデバイスからコピーデバイスにデータをコピーすることができます。

■ コピー 1 デバイスに記録映像をコピーする／コピー 1 デバイスを設定する

開始点と終了点を指定して、データをコピー 1 デバイスにコピーすることができます。開始点と終了点は、ブックマークまたは日付と時刻で指定します。短い期間のデータをコピーするときに便利です。

- コピーを行う前に、コピー 1 デバイスの接続と、<HDD の追加／削除する>および< DVD ／ CD デバイスの追加／削除をする>の設定が正しく行われていることを確認してください。(システムメニュー→デバイス登録)



1 コピーするカメラ番号を設定する。

- 「無し」を押すたびに、ボタン機能は「無し」と「全て」の間で切り換わります。全カメラの「入り」と「切り」を簡単に設定することができます。
- 設定されたカメラ番号または日時に映像がない場合は、コピーされません。また、設定したコピー開始時間に、コピーしたいカメラ番号の映像が記録されていることを確認してください。

2 「詳細設定」を選択し、詳細の設定をする。

「元 - > デバイス」: コピーするデータを含むデバイスを「メイン」、「コピー 2」から選択します。

「元 - > グループ」: コピーするデータを含むグループを選択します。メインの場合「通常」、「アラーム」、「LPA」から、コピー 2 の場合「シリアルバス」、「DVD ／ CD」、「内蔵 HDD」から選択します。

「- >先 コピー 1」: データコピー先のグループを「シリアルバス」、「DVD ／ CD」、「USB メモリ」から設定します。

「コピーデータ」: コピーするデータを「アラーム」、「すべて」から設定します。

「上書き設定」: 現在のデータに上書きするかどうか選択します。

「自動イジェクト」: コピー完了後、メディアを自動的に排出させるか選択します。

- 「元 - > グループ」の「アラーム」は、「パーティション変更」で「アラーム記録エリア」が「0%」以外に設定されているときに表示されます。(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)
- 「元 - > グループ」の「LPA」は、「パーティション変更」で「ロングプリアラームエリア」が「0%」以外に設定されているときに表示されます。(システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする)
- DVD に上書きコピーする場合、はじめにディスクのデータ消去を行います。データの消去には約 30 ～ 40 分かかります。データ消去中に消去を中止することはできませんので、ご注意ください。
- 「コピーデータ」を「アラーム」に設定してコピーする場合、コピーする範囲にアラーム記録のデータがないと、コピーの動作のみ行い、データは記録しません。CD ／ DVD へのコピーの場合は、管理情報のみ記録しますので、残量が少なくなります。アラーム記録データの有無が不明の場合は、<コピー 1 デバイスに記録映像をコピーする>で「テスト」を行うことをおすすめします。

3 コピーの開始点、開始／終了、終了点を、日付と時刻またはブックマークで設定する。

「開始点」: コピーの開始点のみを設定します。開始点からコピー先メディアの残り容量に記録できるだけデータをコピーします。

「開始／終了」: コピーの開始点と終了点を設定します。

「終了点」: コピーの終了点のみを設定します。設定された時間を終了点として、コピー先メディアの残り容量に記録できるだけデータをコピーします。

- ブックマークを使って開始点または終了点を設定するときは、「ブックマーク」を選択してから希望するブックマーク番号を選択してください。
- 最も古いデータからコピーを開始する場合は「記録開始点読込」を、最新のデータまでコピーする場合は「記録終了点読込」を選択します。

4 「テスト」を選択して、コピーするデータの容量を計算する。

- 「終了点」を選択した場合、「テスト」を使ってコピーするデータの容量の計算が完了しないと、コピーを実行することができません。
- 「開始点」または「開始／終了」を選択した場合、「テスト」を使ってコピーするデータの容量を計算せずにコピーを実行すると、コピーする容量が特定できないため、コピーの進捗状況やコピー実施時間が正しく表示されないことがあります。

5 「コピー実行」を選択する。

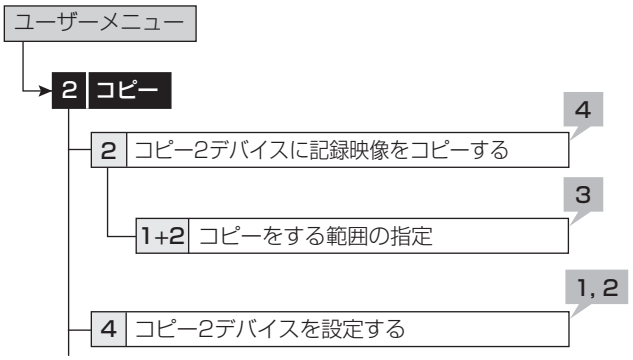
- コピーが始まります。
- コピーを手動で停止させるときは、進捗画面の「コピー中止」を選択してください。停止前までのデータはコピーされています。

記録した映像をコピーする（つづき）

■ コピー 2 デバイスに記録映像をコピーする／コピー 2 デバイスを設定する

開始点のみを指定して、データをコピー 2 デバイスにコピーするときに使用します。開始点は、日付と時刻またはブックマークで指定します。コピーは、手動で停止させない限り、データの終了点になるまで、またはコピー先のメディアがいっぱいになるまで行われます（「リピート書込み」を「停止」に設定している場合）。記録したデータのバックアップをとっておく場合に便利です。

- コピーを行う前に、コピー 1 デバイスの接続と、＜HDD の追加／削除する＞および＜ DVD ／ CD デバイスの追加／削除をする＞の設定が正しく行われていることを確認してください。（システムメニュー→デバイス登録）



1 コピーするカメラ番号を設定する。

- 「無し」を押すたびに、ボタン機能は「無し」と「全て」の間で切り換わります。全カメラの「入り」と「切り」を簡単に設定することができます。
- 設定されたカメラ番号または日時に映像がない場合は、コピーされません。

2 「詳細設定」を選択し、詳細の設定をする。

「元 - ＞ メイン」: コピーするデータを含むエリアを「通常」、「アラーム」、「LPA」から選択します。

「- ＞先 コピー 2」: データコピー先のグループを「シリアルバス」、「DVD ／ CD」、「内蔵 HDD」から設定します。

「コピーデータ」: コピーするデータを「アラーム」、「すべて」から設定します。

「上書き設定」: 現在のデータに上書きするかどうか選択します。

「自動イジェクト」: コピー完了後、メディアを自動的に排出させるか選択します。

「リピート書込み」: メディアの最初に戻ってコピーを繰り返すか、またはメディアがいっぱいになるまでコピーを実施したあと停止するかを選択します。この設定は、コピー先が HDD のときのみ有効です。

- 「元 - ＞ メイン」の「アラーム」は、「パーティション変更」で「アラーム記録エリア」が「0%」以外に設定されているときに表示されます。（システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする）
- 「元 - ＞ メイン」の「LPA」は、「パーティション変更」で「ロングプリアラームエリア」が「0%」以外に設定されているときに表示されます。（システムメニュー→デバイス登録→メインデバイスの記録設定をする）
- DVD に上書きコピーする場合、はじめにディスクのデータ消去を行います。データの消去には約 30 ～ 40 分かかります。データ消去中に消去を中止することはできませんので、ご注意ください。
- 「コピーデータ」を「アラーム」に設定してコピーする場合、コピーする範囲にアラーム記録のデータがないと、コピーの動作のみ行い、データは記録しません。CD ／ DVD へのコピーの場合は、管理情報のみ記録しますので、残量が少なくなります。
- パーソナルコンピューターで使用されたディスクや、コピーに失敗したり停電でコピーが中断されたディスクは、誤動作の原因になりますので使用しないでください。

3 コピーの開始点を設定する。

「開始点」: コピーの開始点を設定します。

「続きから」: 前回のコピーの終了点からコピーを開始します。

- ブックマークを使って開始点を設定するときは、「ブックマーク」を選択してから希望するブックマーク番号を選択してください。
- 最も古いデータからコピーを開始する場合は、「記録開始点読込」を選択します。

4 「コピー実行」を選択する。

- コピーが始まります。
- 手動でコピーを停止させるときは、＜コピー 2 デバイスに記録映像をコピーする＞画面の「コピー中止」を選択してください。停止前までのデータはコピーされています。

- コピー先が HDD で、「リピート書込み」が「停止」に設定されているときに、コピーされた範囲がメディアの有効容量を超えると、警告表示が表示されます。この場合、コピーの範囲を狭く設定し直すか、容量の大きいコピーデバイスを設定してください。
- 記録中にコピーを行うと、記録映像の開始点と終了点が記録されないことがあります。
- コピー中のメインデバイスの記録データが上書き間近になるか上書きされた時点で、コピー動作は停止します。DVD への上書きコピー等、時間のかかるコピーの場合はご注意ください。
- コピー 2 では、コピーのプログレスバーは表示されません。
- 映像データは 2MB 単位で管理されています。コピー時は、指定範囲から 2MB 単位でデータがコピーされます。

■ 本機からビデオテープにコピーする

アナログビデオを使用して、データをビデオテープにコピーすることができます。データは、本機が記録中でもコピーすることができます。アナログビデオの録画操作については、ご使用になるアナログビデオの取扱説明書をごらんください。

1 [アナログビデオ] 記録の準備をする。

・ 必ず、入力切換を本機を接続している外部入力にしてください。

2 [本機] 記録する画面の種類（1 画／分割）を選択する。

3 [本機] 検索機能を使って、コピーを開始したい場面を頭出しする。

4 [アナログビデオ] 録画を始める。

5 [本機] 再生ボタンを押して、再生を始める。

6 コピーをやめる場合は、[本機] の再生停止ボタンを押して再生を停止させたあと、[アナログビデオ] の録画を停止する。

ビデオテープには、画面に表示されている映像のみがコピーされます。

記録した映像をコピーする（つづき）

■ 再生ソフトウェア

本機で CD ／ DVD ／ USB メモリに映像をコピーすると、その映像をパーソナルコンピューターで再生するためのソフトウェアがデータとともに自動的にコピーされます。再生ソフトウェアの使用方法は、以下のとおりです。

◆ 動作環境

- OS: Microsoft Windows 2000 または Windows XP
- CPU: Intel Pentium シリーズの 500MHz 以上の CPU を搭載した IBM PC ／ AT 互換機
- RAM: 256 MB 以上
- HDD: 200 MB 以上のシステムドライブ空き容量
- 表示デバイス : XGA（1024pixel × 768pixel）以上

◆ アプリケーションの起動

1 コピーに使用した CD ／ DVD ／ USB メモリを、パーソナルコンピューターにセットする。

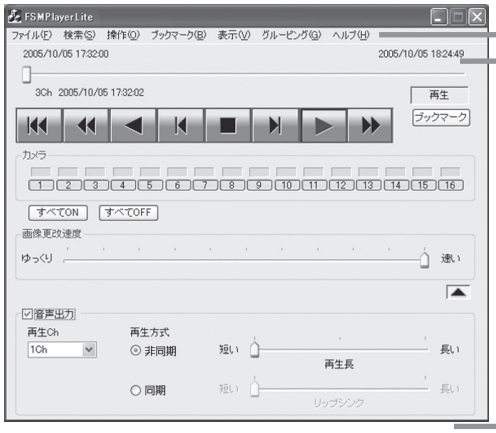
2 ディスクのアイコンをダブルクリックして開く。

3 アプリケーションを起動する。

・「FSM Player Lite.exe」をダブルクリックすると、アプリケーションが起動し、操作パネルが表示されます。

画像が読み込めない場合は、ファイルメニューのフォルダコマンドで、再生したい画像フォルダを選択してください。

FSMPlayerLite パネルは、パネル右側の▼ボタンをクリックすると 4 段階に展開することができます。第 1 段階では各種再生、検索動作およびブックマーク操作をします。第 2 段階では表示カメラウィンドウの選択をします。第 3 段階では再生速度の調節（遅くする方向のみ）をします。第 4 段階では音声再生関連の設定をします。



◆ 操作パネル

先頭へ
現在のメディアの記録部分の先頭へ移動します。

巻戻し
逆方向に高速再生します。逆再生中（× 1）に押すと、押すたびに速度が× 2 → × 4 → × 8 → × 1 → … となります。

逆再生
逆方向に再生します。

コマ戻し
1 コマ戻して停止します。

停止
再生を停止します。音声コマンドがオンのときは、停止後に音声を再生します。

コマ送り
1 コマ送って停止します。

再生
順方向に再生します。

早送り
順方向に高速再生します。再生中（× 1）に押すと、押すたびに速度が× 2 → × 4 → × 8 → × 1 → … となります。

1 ～ 16 カメラ
（早送りボタン右下の▼ボタンをクリックすると、表示されます。）表示カメラを指定します。表示されているカメラは緑色、表示されていないカメラは黒色で表示されます。緑色でも、データが記録されていない場合は、画像は表示されません。

画像更改速度スライダー
（カメラ番号ボタン右下の▼ボタンをクリックすると、表示されます。）マウスでドラッグすることにより、画像データの再生速度を調整することができます。[速い] に設定すると、ご使用中のパーソナルコンピューターの性能によっては動作に支障をきたすことがあります。各パーソナルコンピューターに適切な画像再生速度を見極めてご使用ください。
追記したデータを再生する場合、画像更改速度スライダーがリニアに変化しない場合があります。

音声出力
（画像更改速度スライダー右下の▼ボタンをクリックすると、表示されます。）
【非同期再生】
[音声出力] にチェックマークを入れ、[再生 Ch] をドロップダウンメニューから選択し、再生方式を [非同期] にします。再生を行い、音声を聞きたい場所で停止させます。停止したデータ部分の前後の音声が再生されます。再生する音声の長さは右側のスライドバーで 3 段階に変更することができます。このときの音声実再生時間は記録画像のフレームレートによって異なりますので、再生データごとに適宜調整してご使用ください。

【同期再生】
再生方式を [同期] にして再生してください。ブロック単位で通信ダウンロードしたデータや、レコーダーでコピーした音声付きのデータを音声と映像を同時に再生することができます。このとき表示できる画像 ch は 1 画面だけに限定されます。また、通常再生以外の特殊再生モード（早送り、逆再生など）では音声は再生されません。リップシンクのスライダーは、ご使用になるパーソナルコンピューターおよび再生するデータの記録状態に合わせて調整が必要です。なお、音と映像がうまく一致する調整位置が存在しないこともあります。

- 同期音声再生を行うときは画像更新がパーソナルコンピューターの処理能力に応じて間引きされます。画像優先の再生を行いたいときは「非同期」を選択してください。
- この展開パネルでの設定は次回起動時に引き継がれます。
- 音声の再生 ch と画像の表示 ch は関連づけられていません。
- CD・DVD などの読み出しが遅いドライブから直接再生を行っている場合は、音声が途切れる場合があります。データを HDD などにコピーしてから再生を行ってください。

◆ ファイルメニュー

一括変換
停止中にクリックすると、「一括変換」画面が表示されます。日時範囲とカメラ番号を指定して、[JPEG] または [AVI] ボタンを押すと、画像データを一括変換して保存します。一括変換には、充分なメモリと一時ファイル用の HDD 容量（システムパーティションおよび保存ドライブ）を必要とします。ご使用の環境により限界はさまざまですので、数秒程度の小さなファイル変換から始めて、状況を確認しながら行ってください。

◆ 検索メニュー

検索
クリックすると、「時刻検索」画面が表示されます。「時刻検索」の各テキストボックスに、検索したい日付と時刻を入力し、「検索」ボタンをクリックすると、指定した日時以降で最も近い画像を表示します。追記などにより記録内容の時刻情報が前後すると、検索が使用できない場合があります。

◆ 操作メニュー

[再生]、[停止]、[逆再生]、[早送り]、[巻戻し]、[コマ送り]、[コマ戻し]、[先頭へ] については、操作パネルの項目を参照してください。

◆ ブックマークメニュー

A-, B-
クリックすると、現在の位置を、AB 間リピートの A 点、B 点として登録します。

AB 間をリピート
チェックマークをつけると、ブックマーク A、B コマンドで指定した A 点、B 点間をリピート再生します。

◆ 表示メニュー

表示サイズ
クリックすると、[100%]、[75%]、[50%]、[25%] のサブメニューが表示されます。それぞれ、映像を指定の倍率で表示します。

デコードレベル
クリックすると、[細かい]、[中]、[粗い] のサブメニューが表示されます。デコードレベルを粗くすると、画像が粗くなり、再生の更新速度が上がります。

タイトルバー
クリックすると、[日付]、[アラーム] のサブメニューが表示されます。チェックマークをつけると、選択された項目が画面上に表示されます。

◆ グルーピングメニュー

グルーピングパターン
クリックすると、「グルーピングパターン」画面が表示されます。[4 画]、[6 画]、[9 画]、[10 画]、[13 画]、[16 画] をクリックすると、選択した分割画面が表示されます。各画面に表示させるカメラの位置を設定するには、[設定] をクリックし、設定画面を表示させてください。

◆ 右クリックで表示されるメニュー

- 以下の操作をしたい画面上で右クリックしてください。クリックした画像のみに以下の操作が行われます。

再生中
画像サイズ
表示メニューの項目を参照してください。

デコードレベル
表示メニューの項目を参照してください。

停止中
コピー
クリックすると、現在表示中の画像をクリップボードにコピーします。

名前をつけて保存
クリックすると、「名前をつけて保存」画面が表示されます。現在表示中の画像を Windows ビットマップファイル（.bmp）または JPEG ファイル（.jpg）として保存します。

画像サイズ
表示メニューの項目を参照してください。

デコードレベル
表示メニューの項目を参照してください。

印刷
クリックすると、「印刷」画面が表示されます。[余白] や [プリンタの設定 ...] などを設定後、[印刷] ボタンをクリックすると、表示している画像をプリンタで印刷します。

- フレーム記録された画像データを再生すると、輪郭がギザギザに見える場合があります。その場合は、画像サイズを大きくしてごらんください。
- 画像データが多い場合は、再生ソフトウエアの起動に時間がかかることがあります。

Web ブラウザによる通信

■ Web ブラウザによる通信

本機に接続しているカメラのライブ映像や記録済み映像を、パーソナルコンピューターの Web ブラウザにより取得することができます。また、本機の設定の一部を、パーソナルコンピューターから行うこともできます。

Microsoft ®、Windows ®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。（Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。）その他、記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。なお、本文中では “®” は明記していません。

- Windows 98SE は、Microsoft Windows 98 Second Edition の略称として表記しています。
- Windows 2000 は、Microsoft Windows 2000 Professional の略称として表記しています。
- Windows Me は、Microsoft Windows Millennium Edition の略称として表記しています。
- Windows XP は、Microsoft Windows XP Home Edition ／ Professional の略称として表記しています。

◆ パーソナルコンピューターの動作環境

OS .....Microsoft Windows 98SE、Windows 2000、Windows Me、または Windows XP

CPU .....Intel Pentium シリーズの 500MHz 以上の CPU を搭載した IBM PC ／ AT 互換機

RAM.....256MB 以上

HDD.....200MB 以上のシステムドライブ空き容量

Web ブラウザソフト..Microsoft Internet Explorer 5.5 以上

表示デバイス .....XGA（1024pixel x 768pixel）以上

上記の動作環境は、すべての環境で動作を保証するものではありません。

Web 機能は、パーソナルコンピューターの周辺ドライバとの相性により、ごくまれに正常に動作しないことがあります。このようなときは、最新の Internet Explorer にバージョンアップして再びお試しください。

◆ 接続について

- 本機とパーソナルコンピューター（以下、PC）を直接つなぐ場合はクロスケーブルを、HUB を介してつなぐ場合はストレートケーブルを使用してください。
- PC 側の Web 設定をする場合は、PC の取扱説明書をごらんください。

■ ログイン

Microsoft Internet Explorer を立上げて、ログインします。

1　Microsoft Internet Explorer を立上げ、アドレス欄にレコーダーの IP アドレスを入力する。

- ＜LAN Web ／専用アプリケーションの通信設定をする＞（システムメニュー→通信設定）で設定した IP アドレスを入力してください。工場出荷状態では、IP アドレス「192.168.000.100」が設定されています。
- 「[ログイン]」画面が表示されます。

2-1（ログインする場合は・・・）

「利用者 ID」、「パスワード」を入力する。

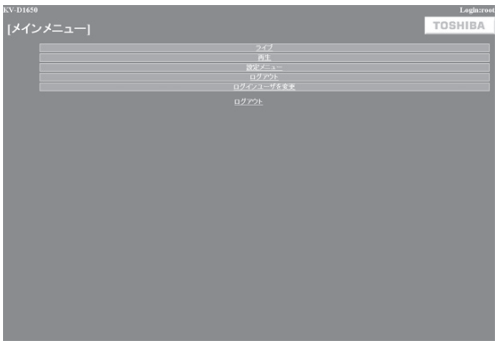
- 工場出荷状態では、全権ユーザーとして利用者 ID「root」パスワード「admin000」と、ライブユーザーとして利用者 ID「guest」パスワード「guest」が設定されています。

同じ利用者 ID、パスワードで複数人が同時にログインすることができます。

権限によっては制約があります。同時に接続できるユーザー数は最大 10 名です。

2-2「ログイン」を選択し、左クリックまたは ENTER を押す。

- 「[メインメニュー]」画面が表示されます。



3-1 (利用者 ID、パスワードを入力間違いした場合は・・・)

・「[注意]」画面が表示されます。

3-2「ログイン」を選択し、左クリック、または ENTER を押す。

・「[ログイン]」画面が表示されます。

3-3 手順 2-1 に従い、正しい「利用者 ID」、「パスワード」を入力する。

4-1 (ログインしない場合は・・・)

「ログインしない場合はこのメッセージをクリックしてログアウトしてください。」を選択し、左クリックする。

・「セッション ID をレコーダーとブラウザから削除しました。ブラウザを閉じてください。」が表示されます。

4-2 Web ブラウザを終了する。

5-1 (パスワードを変更する場合は・・・)

画面指示に従い、現在の「利用者 ID」、「パスワード」を入力する。

・「[ログイン]」画面では、パスワードの変更権限を持っているユーザーのみパスワードを変更することができます。

5-2「新しいパスワード」、「新しいパスワード (再入力)」に新しいパスワードを入力する。

パスワードは、登録できる文字数が大文字・小文字を区別したアルファベットおよび数字で 16 文字までです。スペースは使用できません。

5-3 新しいパスワードに変更する場合は「変更」を選択し、左クリック または ENTER を押す。

やめる場合は、「クリア」を選択し、左クリック または ENTER を押す。

■ メインメニュー

この画面では、以下の操作を行うことができます。

・「ライブ」: ライブ映像を取得し、表示します。
・「再生」: 記録済み映像を取得し、再生します。
・「設定メニュー」: レコーダーの一部の設定を行います。
・「ログアウト」: 作業を終了します。
・「ログインユーザを変更」: ログインユーザーの変更を行います。

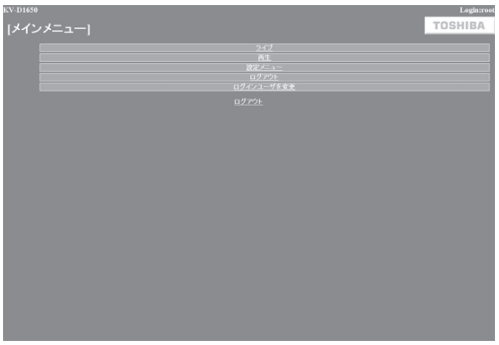
ユーザーの権限によっては、選択できないメニューがあります。

通信時の転送レートは、通信環境および本機の負荷状況により一定ではありません。安定した通信を行うため、使用状態に応じた適正な画像転送速度でご使用ください。

ユーザーのセッション ID (接続情報) は、映像取得を含む最後の通信から 5 分で失われます。クライアント PC からのデータ要求が 5 分以上途絶えた場合、それ以降の操作ができませんので、Web ブラウザをいったん終了して再びログインしなおしてください。

本機の MAIN スイッチが OFF のときは、ライブ・記録映像を取得できません。

1 希望するメニューを「メインメニュー」から選択し、左クリックする。



Web ブラウザによる通信（つづき）

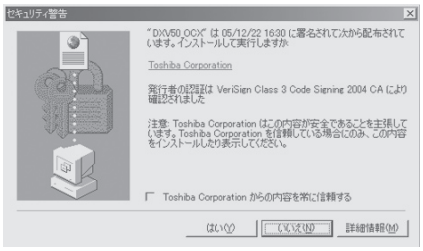
◆ ライブ

ライブ映像を取得し、PC 画面上に表示します。

1 「ライブ」を選択し、左クリックする。

・「[ライブ]」画面が表示されます。

PC の Web ブラウザによりはじめて映像を取得しようとした場合、下のようなメッセージが表示されることがあります。表示された場合は、“はい（Y）”を選択してください。



本機がフルレート（240 pps）で記録しているときに、記録されていないカメラの映像は、更新されないことがあります。

【機能説明】

停止
映像の取得をやめます。

ライブ
映像の取得を開始（再開）します。

画面内表示
カメラ番号の表示・非表示を選択します。

画面レイアウト
12 種類の表示パターンから選択します。（初期設定は「4（1-4）」）

表示カメラ
表示させたいカメラ番号を選択します。

画像転送速度
映像取り込み速度を「ゆっくり」～「速い」の 5 段階で選択します。（初期設定は中央）

レイアウト保存
画面表示のレイアウトを「PC」へ登録します。

[メインメニュー]
「[メインメニュー]」画面へ戻ります。

[ログアウト]
ログアウトします。

「画像転送速度」を「速い」に設定すると、ご使用中の PC の性能によっては動作に支障をきたすことがあります。各 PC に適切な画像転送速度を見極めてご使用ください。

ネットワークの容量や負荷状況によっては、転送速度が上がらない場合があります。

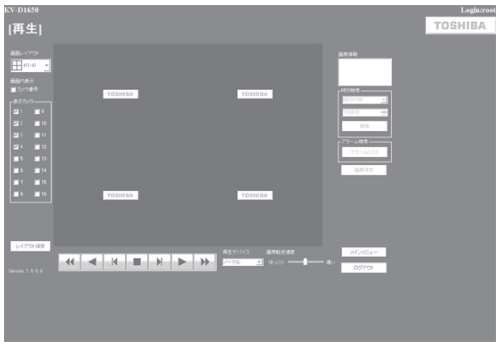
フレーム記録設定しているカメラの映像をライブ表示すると、映像が縦ゆれすることがあります。

◆ 再生

レコーダーの記録済み映像を取得し、再生、検索を行います。

1 「 再生 」を選択し、左クリックする。

・「[再生]」画面が表示されます。



2 ▶ボタンを押す。

・ 再生が始まります。

【機能説明】

▶ 押すと、再生を始めます。

▶▶ 押すと、x2、x4、x8、x16 の順方向スピード検索を始めます。

▶| 押すと、順方向のコマ送り再生を始めます。

◀ 押すと、逆再生を始めます。

◀◀ 押すと、x2、x4、x8、x16 の逆方向スピード検索を始めます。

|◀ 押すと、逆方向のコマ送り再生を始めます。

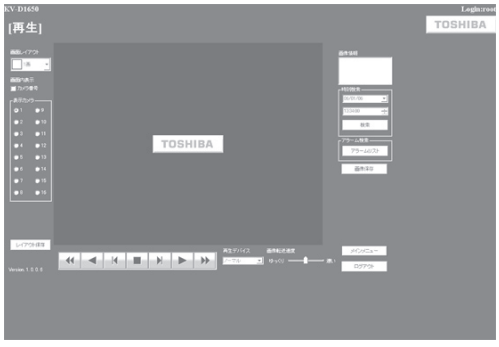
■ 再生中、検索中に押すと、静止画再生になります。

再生デバイス

再生、検索をする HDD を選択します。(初期設定は「 ノーマル 」)

「 画像情報 」には取得した映像の日時、カメラ番号が表示されます。「 画像保存 」をクリックすると静止画表示された映像をビットマップ形式で PC へ保存することができます。

1 画面表示のときは、以下のような検索ができます。



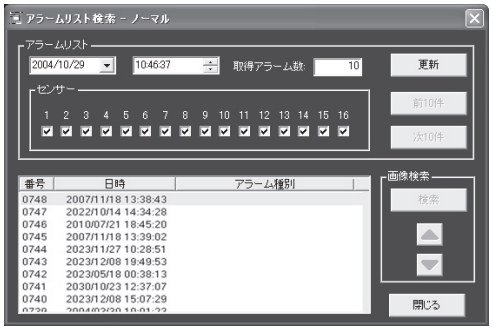
記録映像の各種検索は、「 再生 」画面で 1 画面表示を選択し、再生を停止させたときに行うことができます。映像再生中はこの機能は動作しません。はじめに再生を停止させてください。

● 時刻検索

日時を選択し、「 検索 」をクリックしてください。

● アラームリスト検索

「 アラーム検索 」をクリックすると、「 アラームリスト検索 」画面が子画面で表示されます。



1 希望する日時と取得したいアラームリスト項目を設定し、「更新」をクリックする。

・「 更新 」をクリックしないとアラームリストは取得できません。

・ 取得したいアラームリストの件数を「取得アラーム数」に入力します。記録状態によっては、「取得アラーム数」の数値を大きくすると、取得までに時間がかかったり、希望する件数を取得できないことがあります。

・「センサー」: アラームリスト項目を取得したいセンサー番号にチェックマークを入れてください。

2 希望する「番号」を選択し、「検索」をクリックする。

・「前（数字）件」をクリックすると逆方向の検索を、「次（数字）件」をクリックすると順方向の検索を行います。

・「 更新 」をもう一度クリックすると、「 アラームリスト 」を再取得し、「 閉じる 」をクリックすると「 アラームリスト検索 」画面を隠します。

● 画像検索

▲をクリックすると、次のアラームリスト項目の映像が表示されます。

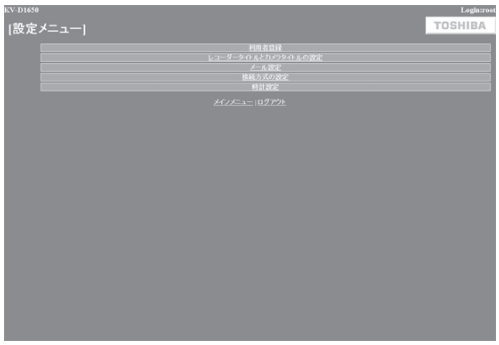
▼をクリックすると、前のアラームリスト項目の映像が表示されます。

◆ 設定メニュー

レコーダーの一部の設定をします。

1 「[メインメニュー]」画面の「設定メニュー」を選択し、左クリックする。

・「[設定メニュー]」画面が表示されます。



2 希望するメニューを選択し、左クリックする。

● 利用者登録

この画面では、登録済み利用者の権限に関する設定変更や、登録削除を行います。また、新規利用者の登録も行うことができます。

1 「利用者登録」を選択し、左クリックする。

・「[利用者登録]」画面が表示されます。

2-1 (登録済み利用者の設定を変更する場合は・・・)

「利用者の設定変更」設定で、設定変更する利用者 ID を選択する。

・ 変更したい項目を選択してください。

【権限について】

ライブ

ライブ映像を取得することができます。登録される必須ランクです。

再生

記録映像を取得することができます。

オールカメラ

すべてのカメラの映像を取得することができます。（カメラ表示設定で、表示を「切」に設定したカメラの映像も取得することができます。）

パスワード変更

ユーザーのパスワードを変更することができます。

設定

ユーザー登録情報を閲覧、編集することができます。

ユーザーの権限によっては、選択できない項目があります。

「設定」権限は、1 人のユーザーしか行使できません。先にログインしたユーザーがログアウトして権限を解放するまで、他のユーザーは「設定」権限を持たないユーザーとしてログインすることになります。

「再生」権限は、1 人のユーザーしか行使できません。先にログインしたユーザーがログアウトして権限を解放するまでは、他のユーザーは「再生」権限を持たないユーザーとしてログインすることになります。

2-2 (設定を変更する場合は・・・)

「変更」を選択し、左クリックする。

・「[利用者設定変更確認]」画面が表示されます。

2-3 変更する場合は「変更」、やめる場合は「キャンセル」を左クリックする。

2-4 (「変更」を選択した場合は・・・)

「[完了]」画面で、「利用者登録」を左クリックする。

・「[利用者登録]」画面に戻ります。

2-5 (「キャンセル」を選択した場合は・・・)

・「[利用者登録]」画面に戻ります。

3-1 (登録済みユーザーを削除する場合は・・・)

「利用者の設定変更」で削除したい利用者 ID の「削除」を左クリックする。

・「[利用者削除確認]」画面が表示されます。

3-2 削除する場合は「削除」、やめる場合は「キャンセル」を左クリックする。

3-3 (「削除」を選択した場合は・・・)

「[完了]」画面で、「利用者登録」を左クリックする。

・「[利用者登録]」画面に戻ります。

3-4 (「キャンセル」を選択した場合は・・・)

・「[利用者登録]」画面に戻ります。

4-1 (新規利用者を登録する場合は・・・)

「利用者の追加」で新規利用者 ID と新規パスワードを入力する。

4-2 手順 2-1 を参考にして希望する「権限」を選択し、チェックマークを入れる。

同名の利用者 ID を登録することはできません。パスワードは、登録できる文字数が大文字・小文字を区別したアルファベットおよび数字で 16 文字までです。スペースは使用できません。

4-3 新規登録する場合は「登録」、やめる場合は「クリア」を左クリックする。

4-4 (「登録」を選択した場合は・・・)

・「利用者の設定変更」に追記されます。

4-5 (「クリア」を選択した場合は・・・)

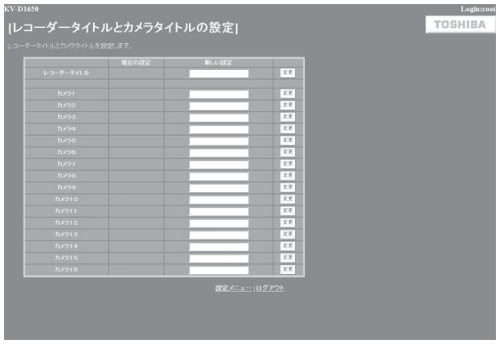
・ 設定した内容が消去されます。

● レコーダータイトルとカメラタイトルの設定

この画面では、レコーダーやカメラのタイトルを設定または変更することができます。

1 「レコーダータイトルとカメラタイトルの設定」を選択し、左クリックする。

・「[レコーダータイトルとカメラタイトルの設定]」画面が表示されます。



2 「新しい設定」に、希望するタイトルを入力する。

・ 現在設定されているレコーダーまたはカメラタイトルは、「現在の設定」に表示されます。

3 「変更」を選択し、左クリックする。

● メール設定

この画面では、メールを送信するためのメールサーバーまたは発信者に関連する情報の設定と、受信者のメールアドレスの設定を行います。

1 「メール設定」を選択し、左クリックする。

・「[メール設定]」画面が表示されます。

2 （メール送信のための設定をする場合は・・・）

「SMTP サーバー」、「POP サーバー」、「POP 利用者 ID」、「POP 利用者パスワード」、「DNS サーバー 1 アドレス」、「DNS サーバー 2 アドレス」、「From：」、「レコーダ ID」に希望する設定を入力する。

・ 現在の設定は、「現在の設定」に表示されます。

e-mail アドレス文字数は、49 文字に制限されます。

3 テストメールを送信するには、「From アドレスのテスト（テストメール送信）」を選択し、左クリックする。

4 （e-mail 画像添付機能の設定をする場合は・・・）

「画像添付」チェックボックスにチェックマークを入れる。

・ マークを入れたユーザーへアラーム記録発生時の画像 1 枚を添付したメールを送信します。メールに添付される画像データファイルの拡張子は、「.aap」となります。

・「添付画像ディレイ時間」は、添付する画像をキャプチャするタイミングを設定します。アラーム発生から画像キャプチャまでの時間を最大 10 秒まで設定することができます。

アラーム記録がない場合には、画像添付はできません。

添付される画像は、アラーム信号が入力された後面 ALARM IN 端子に対応するカメラのアラーム記録映像のうちの 1 枚となります。

画像添付をするには、「センサー入力」にチェックマークを入れてください。

同時に複数の発報が重なった場合、通知が遅れたり、すべての項目が発報できないことがあります。

アラーム記録時間が添付画像ディレイ時間の設定値より短い場合は、画像を添付することはできません。

同時に複数のアラーム入力を検知した場合は、最も若い番号のセンサーに対応するカメラの映像のみをメールに添付します。

添付された画像を見るときは、

JK-PC1650 をインストールした PC の場合：

ファイルをクリックまたはダブルクリックしてください。

JK-PC1650 をインストールしていない PC の場合：

付属の CD 内の「MPicViewer.exe」にファイルをドラッグアンドドロップして表示させてください。

表示した画像は、一般画像フォーマットでの保存や印刷が可能です。

5-1 （受信者のアドレスを設定する場合は・・・）

「新しい設定」に希望するアドレスを入力する。

5-2 レコーダーから PC へ送信する内容を設定する。

・「残量」、「高温／ファン停止」、「再起動」、「通常記録」、「アラーム記録」、「センサー入力」を設定することができます。

5-3 設定したメールアドレスを有効にするかを選択する。

・「有効・無効」の欄にチェックマークを入れると、選択されたメールアドレスが有効になります。

5-4 「設定」を選択し、左クリックする。

5-5 「送信」を選択し、テストメールを送信する。

e-mail 発報や IP 発報の頻度が高いとレコーダーの動作が不安定になることがありますので、ご注意ください。

Web ブラウザによる通信（つづき）

● 接続方式の設定

この画面では、SSL の設定を変更します。

1 「接続方式の設定」の中の、変更したい項目を選択する。

・ Web アクセス時の SSL 使用 :

暗号化機能（SSL）のレベルを設定します。

「SSL を使用しない」: 暗号化機能を使用しません。

「メニューのみ」: メニューにのみ暗号化機能を使用します。

「メニューと画像」: メニューおよび映像に暗号化機能を使用します。

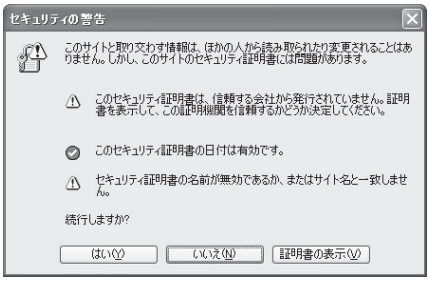
・ SSL ポート番号 :

SSL 通信で使用するポート番号を設定します。

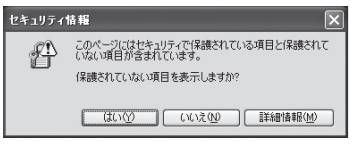
・ 帯域制御 :

通信のバンド幅を制御します。

SSL での通信を選択すると、下のようなメッセージが表示されます。「はい」を選択して、続きを行ってください。



SSL レベルを「メニューのみ」に設定している場合、ライブ、再生のページを開く際に下のようなメッセージが表示されます。「はい」を選択してページを開いてください。この場合、ブラウザの暗号化通信を表す鍵型アイコンは表示されなくなりますが、実際には暗号化されて通信を行っています。



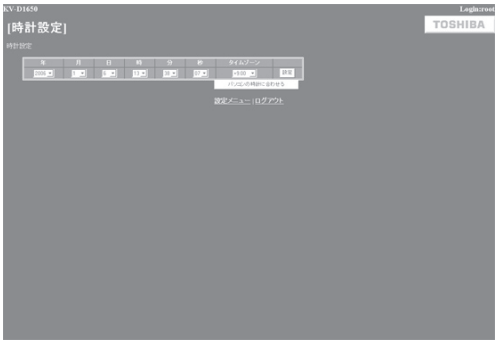
2 「新しい設定」に希望する設定を入力して、「変更」を左クリックする。

● 時計設定

この画面では、PC からレコーダーの時刻を設定します。

1 「時計設定」を選択し、左クリックする。

・ 「[時計設定]」画面が表示されます。



2-1 現在の「年」、「月」、「日」、「時」、「分」、「秒」、「タイムゾーン」を入力する。

2-2 「設定」を選択し、左クリックする。

3 レコーダーの時刻設定を、PC の時刻と同期させる場合は、「パソコンの時計に合わせる」を選択し、左クリックする。

・ レコーダーの時刻が、PC の時刻設定と同じ時刻に設定されます。

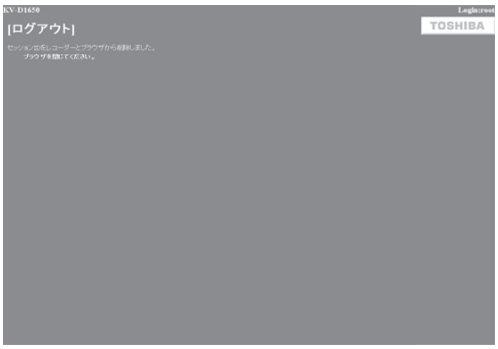
・ 年／月／日超え、時／分超えなどのタイミングで操作したときは、設定後に再確認してください。

◆ ログアウト

この画面が表示されると、正しく「ログアウト」できたことになります。

1 「ログアウト」を選択し、左クリックする。

・「[ログアウト]」画面が表示されます。



2 Web ブラウザを終了します。

正しくログアウトの操作をせずにブラウザを終了した場合、ユーザーのセッション ID が 5 分間保持されてしまいます。5 分以内に同じ利用者 ID でログインしようとすると、操作制限がかかることがあります。

◆ ログインユーザーを変更

この画面では、ログインしているユーザーの変更を行います。

1 「ログインユーザーを変更」を選択し、左クリックする。

・「[ログイン]」画面が表示されます。

2-1 (ログインしているユーザーを変更する場合は・・・)

「ログイン（ログインユーザの変更）」設定で「■ログイン」の手順 2-1、2-2 を実行し、ログインしているユーザーを変更する。

・ ログインしているユーザーが変更され、「[メインメニュー]」画面が表示されます。

2-2 (ユーザーを変更しないでログインする場合は・・・)

ブラウザの「戻る」を選択し、左クリックする。

2-3 (ログアウトする場合は・・・)

「ログインしない場合はこのメッセージをクリックしてログアウトしてください。」を選択し、左クリックする。

「故障かな」と思う前に

下記の内容をお調べになったあと、それでも不都合がある場合は、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてからお買い上げの販売店にご連絡ください。

	こんな症状が出たら	ここをお調べください
設置	**本機の電源が入らない。**	●電源プラグがコンセントから外れていませんか？ ●ロックインジケーターが点灯していませんか？ ●タイマーインジケーターが点灯していませんか？ ●後面部の MAIN スイッチが「OFF」になっていませんか？
	電源が入っているのに動かない。	●ロックインジケーターが点灯していませんか？ ●電源インジケーターが点滅していませんか？ 点滅中は、操作を受け付けません。 ●安全装置がはたらいている可能性があります。後面部の RESET ボタンをボールペンなどで押してから、電源を入れなおしてください。
	モニターに映像が出ない。	●モニターやカメラが正しく接続されていますか？ ●選択されたカメラ番号に映像信号が入力されていますか？ 16 分割表示にして、確認してください。
	モニターの映像が不鮮明である。	●接続コードの接続不良はありませんか？ ●カメラのピントは正しく調整されていますか？
記録	**記録ができない。**	●リピート記録が「切」に設定されていませんか？ ●記録は、設定した記録コマ数の時間が経過したあとに始まります。設定した記録コマ数の時間以内に、停止させませんでしたか？
	記録を停止することができない。	●ロックインジケーターが点灯していませんか？ ●通常記録、アラーム記録、エマージェンシー記録の記録中は、記録／記録停止ボタンを 2 秒以上連続で押してください。 ●タイマー記録の記録中ではありませんか？ タイマー記録を解除したいときは、もう一度タイマーボタンを 2 秒以上連続で押してください。
	リピート記録ができない。	●リピート記録の設定を「入」にしていますか？
	タイマー記録ができない。	●日付・現在時刻は正確に設定しましたか？ ●記録開始時刻、終了時刻、記録コマ数を正しく設定しましたか？ ●リピート記録が「切」に設定されていませんか？
	アラーム記録ができない。	●アラーム記録のコマ数が「－－－」に設定されていませんか？ ●記録容量が無くなっていませんか？ ●タイマー記録の待機中ではありませんか？ （タイマーインジケーターが点灯していませんか？） ●外部のセンサーなどが正しく接続されていますか？
再生	**再生ができない。**	●ロックインジケーターが点灯していませんか？ ●データが消去されていませんか？ ●再生デバイスの選択は合っていますか？

	こんな症状が出たら	ここをお調べください
外部記録機器	**コピー機器／バックアップ機器の操作ができない。**	●メディアが正しく挿入されていますか？ ●本機がメディアを認識動作中ではないですか？ ●再生デバイスの選択は合っていますか？ ●メディアがライトプロテクトされていませんか？ ●外部記録機器の電源は入っていますか？ ●コピーデバイスが＜HDDの追加／削除する＞または＜DVD／CDデバイスの追加／削除をする＞に登録されていますか？
その他	**本機を通してカメラが制御できない。**	●制御するカメラは正しく接続されていますか？ ●＜PTZ設定＞は正しく設定されていますか？
	動き検知機能がはたらかない。	●アラーム記録の画面で動き検知機能をはたらかせたいカメラ番号のアラーム入力が「端子」になっていませんか？ ●記録コマ数設定画面で動き検知機能をはたらかせたいカメラ番号のアラーム記録コマ数が「－－－」になっていませんか？ ●＜動き検知設定＞画面の「記録開始ドット数」の数値が「検知エリア設定」の数値より大きくなっていませんか？ ●検知エリアは正しく設定されていますか？
	パーソナルコンピューターで制御できない。	●＜通信設定＞メニューは正しく設定されていますか？ ●正しく接続されていますか？ ●接続ケーブルに接続不良はありませんか？ ●接続ケーブルの種類は合っていますか？
	分割表示のときに、青の画面が表示されるカメラ番号がある。	●運用設定をしていても、映像信号の入力がないカメラ番号の画面は、青で表示されます。
	ボタン操作ができない。	●電源インジケーターが点滅していませんか？ 点滅中は、操作を受け付けません。 ●ロックインジケーターが点灯していませんか？
	カメラ番号ボタンでカメラの切り換え操作ができない。	●メニュー画面が表示されていませんか？ メニュー画面を表示中は、カメラ番号ボタンは使用できません。
	メニューの設定ができない。	●出力Bが選択されていませんか？ 出力Bが選択されているときは、マウスのカーソルは表示されますが、メニューは表示されず、設定できません。メニューは、出力Aが選択されているときのみ設定することができます。
	以下の操作ができない **・コピー1** **・コピー1デバイスのデータ消去** **・メニューの保存・読み出し** **・リストア** **・ピクチャーコピー**	●LAN経由で記録データの区間ダウンロード（付属のソフトウェアJK-PC1650を使用した遠隔からの画像データのコピー機能）を行っていませんか？ 区間ダウンロード中は、左記の操作をすることはできません。

警告表示と CALL OUT 信号の出力

■ 警告表示とその対処法

※1 CALL OUT 信号の出力について

選択：メニュー画面で CALL OUT 信号の出力の入／切が設定できる。

共通：メニュー画面の設定にかかわらず、CALL OUT 端子から CALL OUT 信号を出力する。

なし：CALL OUT 信号は出力しないが、画面上に警告表示をする。

画面表示に「注意」が表示されているときにヘルプボタンを押すと、警告表示が表示されます。「注意」の内容は、過去 16 件のみ保存し、表示させることができます。それ以前の内容は消去され、CALL OUT 信号の出力は解除されます。CALL OUT 信号の出力は、前面部の E ボタンを押すか、「警告消去」をクリックすることにより止めることができます。

警告表示	対処	警告表示の解除方法	コード	CALL OUT 信号の出力 ※1
メインデバイスの通常記録エリアの残量が **%以下になりました※2	•必要に応じてコピーを行う。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG1200	選択
メインデバイスのアラーム記録エリアの残量が **%以下になりました※2			LOG1201	
メインデバイスのロングプリアラームの残量が **%以下になりました※2			LOG1202	
コピー2の残量が**%以下になりました※2			LOG7200	
メインデバイスの通常記録エリアの残量が 0%になりました	•警告を解除することにより、最も古い記録の部分から上書き記録に移行する。 •必要に応じてコピーを行う。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG1100※3 LOG4100※4	選択 なし
メインデバイスのアラーム記録エリアの残量が 0%になりました			LOG1101※3 LOG4101※4	選択 なし
メインデバイスのロングプリアラームの残量が 0%になりました			LOG1102	選択
コピー1の残量が0%になりました	•必要に応じて新しいメディアと交換する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3100	なし
コピー2の残量が0%になりました			LOG7100	選択
コピーサイズエラー コピー元のデータ範囲かコピーメディアの空き容量を確認してください。	•コピー／リストアする範囲を再設定する。 •新しいメディアと交換する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3701※5 LOG4701※4	なし
コピーサイズエラー コピー範囲かコピーメディアの空き容量を確認してください。			LOG7701※6	
コピーメディアエラー コピーできません コピー機器・コピーメディアを確認してください	•記録機器のメディアを確認する。(メディアが入っていないときは、メディアを挿入する。) •メディアのライトプロテクトがかかっていないか確認する。かかっていれば、解除する。 •外部記録機器、本機ともに電源を切ったのち、外部記録機器、本機の順で再起動する。 •外部記録機器、本機ともに電源を切ったのち、ケーブルの確認を行う。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3702※5 LOG4702※4	なし
コピーメディアエラー データコピーができません コピー機器を確認してください			LOG7702※6	
ディスクがありません ディスクが挿入されていないか 使用できません 使用可能なディスクを挿入してください	•ディスクを挿入する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3703※5 LOG4703※4	なし
ディスクがありません ディスクが入っていないか 使用できないディスクです 使用可能なディスクに交換してください			LOG7703※6	
コピー1の残量が0%になりました ドライブに新しいディスクを挿入してください	•ディスクを交換する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3704※5	なし
コピー2の残量が0%になりました ドライブに新しいディスクを挿入してください			LOG7704※6	

警告表示	対処	警告表示の解除方法	コード	CALL OUT信号の出力 ※1
入力信号がありません カメラからの入力信号がありません カメラと信号ケーブルを確認してください	• 本機とカメラが正しく接続されているか、電源が入っているか確認する。 • カメラから所定の映像信号が出力されているか確認する。 • 映像信号の入力がないカメラを運用設定していないか確認する。	記録を停止する。 映像信号を出力させる。 「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG54□□ ※7	共通
軽微なエラーが発生しましたが、そのまま使用できます	• 異常がなければ、継続して使用する。 • エラーが続く場合は、HDD、メディア、ケーブルを確認し、再起動する。	1分後自動消去	LOG13□□※8 LOG33□□※8 LOG43□□※8 LOG73□□※8	なし
		―――	LOG23□□※8	
動作が不安定となった為システムを一時停止し記録を再開しました HDD＊＊＊＊は切り離されました	• 再起動する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG14□□※8	共通
動作が不安定となった為システムを停止しました 再度操作を開始してください			LOG74□□※8	
		1分後自動消去	LOG24□□※8 LOG34□□※8 LOG44□□※8	なし
他のレコーダーで記録されたか、改変されている可能性のあるデータを検出しました	―――	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG55□□※7	なし
デバイスに問題を検出しました	―――	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG6200	共通
再起動しました、そのまま使用可能です レコーダーの確認をしてください	• 本機の確認をする。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG5100	共通
レコーダーが高温になっています 換気を確認してください	• 電源を切り、設置状態を変える。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG5200	共通
レコーダーが高温になっています 動作を止めてください	• 電源を切り、設置状態を変える。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。温度を下げる。	LOG5201	共通
ファンが止まりました、確認してください	• 電源を切り、使用を中止する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。ファンを回転させる。	LOG5300	共通
記録がコピー中のデータを上書きしました コピーを中止しました	• 引き続きコピー／バックアップを行う場合は、記録を停止する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3500※5 LOG7500※6	なし
記録がコピー中のデータを上書きしようとしています コピーを続けるならば、記録をとめてください	• 引き続きコピー／バックアップを行う場合は、記録を停止する。 • 引き続き記録を行う場合は、コピー／バックアップを停止する。	「警告消去」をクリックするか、Eボタンを押す。	LOG3600※5 LOG7600※6	なし
(なし)	ウォッチドック動作または自己復旧のために再起動した。	―――	LOG5101 LOG5102 LOG5103	ー

※2：数値は、設定によって変わります。
※3：記録用のコード
※4：リストア用のコード
※5：コピー1用のコード
※6：コピー2用のコード
※7：(□□ には、下記の番号が入ります。)
01：CH 1　07：CH 7　13：CH 13
02：CH 2　08：CH 8　14：CH 14
03：CH 3　09：CH 9　15：CH 15
04：CH 4　10：CH 10 16：CH 16
05：CH 5　11：CH 11
06：CH 6　12：CH 12

※8：
13□□、14□□：記録　　23□□、24□□：再生　　33□□、34□□：コピー1
43□□、44□□：リストア　　73□□、74□□：コピー2
(□□ には、下記の番号が入ります。)
00：A (内蔵)　01：B (内蔵)　10～25：USB (外部)

※LOG14□□について：記録中に表示されます。一度システムを停止し、再度記録を開始します。（エラーとなったHDDは、自動的に記録デバイスの登録から削除されます。登録されているHDDの最後の1台まで記録を継続します。）
※LOG24□□～74□□について：コピー中・再生中に表示されます。一度システムを停止するため、再生・コピー動作は停止します。再度再生・コピーを行ってください。
※LOG54□□について：記録中に、記録しているカメラ映像の信号が2秒以上なくなった場合に表示されます。2秒以下の記録の場合は、表示されないことがあります。

保証とアフターサービス

保証と修理サービスについて

● 保証書について

保証書は販売店からお渡しいたします。必ず「販売店名・購入日」などの記入をお確かめになり、保証内容をよくお読みのうえ大切に保存してください。

保証期間：お求めの日から 1 年間です。

● 保証期間中に修理を依頼されるとき

「使用上のお願い」をはじめ、取扱説明書の内容をもう一度ごらんいただき、なお異常のあるときは必ず電源の供給を停止してから、お求めの販売店にご連絡ください。保証書の記載内容によって、販売店が修理いたします。アフターサービスについてご不明な点はお求めの販売店にお問い合わせください。

本製品を分解、改造した場合は、保証（無料修理）およびその他のサービスが受けられません。

● <ご連絡していただきたい内容>

·ご住所　·ご氏名　·電話番号

·製品名　·形名

·ご購入日

·故障内容

·異常の状況（できるだけ詳しく）

● 保証期間経過後、修理を依頼されるとき

お求めの販売店に、まずご相談ください。修理により製品の機能が維持できる場合には、ご要望により有料で修理いたします。

● 部品について

（1） 修理のために取り外した部品は、特段の申し出がない場合は弊社にて引き取らせていただきます。

（2） 修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

● 廃棄について

（1） 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。くわしくは、各地方自治体にお問い合わせください。

（2） 本製品の廃棄の際に、ハードディスクに保存されたデータの完全消去を行う場合には、お買い上げ販売店にご相談ください。

● ハードディスクの取り扱いについて

本機は映像を内蔵のハードディスクに記録する装置です。修理をご依頼になるときのハードディスクの取り扱いは以下の通りです。

（1） ハードディスク以外の故障の場合

基本的には修理後、ハードディスクをフォーマットして修理完了となります。したがってお預かりしたときに記録されている映像はすべて消去されることになります。

もしお客様がそれまで記録されていた映像を残したまま修理完了を望まれる場合は、修理をご依頼になるときにその旨お伝えください。（ただしハードディスクをフォーマットしないと故障原因が改善されない場合もありまので、あらかじめご了承ください。）

（2） ハードディスクが故障の場合

ハードディスクに異常がある場合はフォーマットをすることになりまので、お客様が望まれた場合でも記録された映像は残しておくことはできません。さらにそれでも故障原因が改善されない場合、ハードディスクの交換となります。

株式会社 東芝 デジタルメディアネットワーク社

映像システム事業部

〒105-8001　東京都港区芝浦 1－1－1

電話番号　（03）3457－8404

＊住所電話番号は変更になることがありますのでご了承ください。

KV-D1650

PRINTED IN MALAYSIA

この取扱説明書は、
再生紙を使用しています。

872C363B7

V2.0